

最終開催案内書



第17回世界湖沼会議

(いばらき霞ヶ浦2018)

人と湖沼の共生

—持続可能な生態系サービスを目指して—



平成30年

会期

10月15日(月)▶19日(金)

会場

つくば国際会議場ほか

主催



茨城県



公益財団法人
国際湖沼環境委員会 (ILEC)

共催

国土交通省、環境省、農林水産省、土浦市、つくば市、
かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市、霞ヶ浦問題協議会、
ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

～世界湖沼会議について～

世界湖沼会議は、1984年に滋賀県の提唱により開かれた「世界湖沼環境会議」の後身として、(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)と世界各国の団体により開催されてきました。以来、同会議は研究者・行政担当官・NGOや市民等が一堂に集まり、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題やそれらの解決に向けた取り組みについての議論や意見交換の場となっています。

これまで、おおむね2年ごとに日本、米国、ハンガリー、中国、イタリア、アルゼンチン、デンマーク、ケニア、インド、インドネシアの10か国で開催されました。



※過去の会議の様子
(出展：ILEC ホームページ)

～第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)のシンボルマークについて～

(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)の公式ロゴをベースに、茨城県と県内湖沼の地図に「IBARAKI2018」と記載し、オリジナリティを加えるため、「A」の文字を「八」と表記しました。ILECロゴの上下の三本線は、市民・研究者・行政の3者と、水・土・緑の3要素を表しておりますが、第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)のシンボルマークでは、森林の緑色、湖の青色をグラデーションで表しています。





目 次

1	開催趣旨	01
2	開催概要	02
3	会議日程	03
4	参加者へのご案内	05
5	分科会及び霞ヶ浦セッション(ポスター)発表者へのご案内	07
6	プログラム	
	(1)開会式	10
	(2)いばらき霞ヶ浦賞授与式	10
	(3)基調講演	10
	(4)政策フォーラム	10
	(5)会議総括	10
	(6)閉会式	10
	(7)湖沼セッション	11
	(8)霞ヶ浦セッション	13
	(9)各分科会の日程表	17
	・分科会(口頭)	19
	・分科会(ポスター)	43
	・論文表彰について	54
	(10)学生会議	55
	(11)交流行事	60
	(12)展示会	61
	(13)協賛企業・団体の紹介パネル展示	61
	(14)主催者等の取組展示	61
	(15)ワークショップ	62
	(16)エクスカーション	65
	(17)サテライト会場 環境関連行事	69
7	会場案内	71
8	ご案内	73
9	茨城県の紹介	75
10	組織	77
11	協賛企業・団体のご紹介・助成団体のご紹介	81

1 開催趣旨

水はすべての生命の基礎であり、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。湖沼は、農業や漁業、産業そして文化においても、きわめて重要な資源・資産であり、その環境の保全が重要です。

前回、1995年（平成7年）に茨城県で開催されました第6回世界湖沼会議では「人と湖沼の調和 - 持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして -」というテーマを掲げ、湖沼の利用と環境保全、淡水資源の確保と管理、湖沼の富栄養化や化学物質の影響について議論し、人間と湖沼の調和をとるべく意見交換を実施しました。更に、水環境保全活動の取組や環境教育に焦点をあてたことにより、多くの流域住民や市民団体が参加し、市民活動が活発になる契機となりました。会議以降、市民、研究者、企業、行政4者がパートナーシップのもと水環境問題に取組み続けています。

近年、世界湖沼会議においては、生態系に関するテーマが議論されています。また生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすもので、生物に国境はなく、世界全体でこの問題に取り組むことが重要であることから、生物多様性条約が1992年（平成4年）に採択され、情報交換や調査研究等を各国が協力して行っています。

一方、日本においては、水が人類共通の財産であることを再認識し、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために、水循環基本法が2014年（平成26年）7月に施行されました。法律では、「水循環の重要性」、「流域の総合的管理」等を基本理念として掲げ、地方公共団体、事業者、国民それぞれの責務と関係者相互の連携及び協力について定めています。

食料や水の供給等生物の多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである生態系サービスを人は享受してきました。しかし、開発行為や気候変動等により生物の多様性は急激に失われつつあります。今回の会議では、人が生物多様性の保全や回復により一層務めることで、生態系が維持される、即ち人と湖沼が互いに支えあう、共に生きていく社会づくり（方策）について議論します。また、生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取り組むべきなのかについて、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政等湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。

本会議を契機に、様々な立場の者がそれぞれの役割分担のもと、連携がより一層強化され、湖沼問題解決の新たな進展につながることを目指します。

～生態系サービスとは～

生態系とは、植物が太陽の光を利用し、光合成によって作り出す炭水化物（有機物）を基盤として機能するシステムです。

生態系は多様な生物からなり、複雑につながり合った食物網、食物連鎖によりつながっています。私たち人類も、つながっている数多くの生物の一つです。

生態系とは、言い換えれば自然のことであり、私たちの生活や文化、暮らしは、食料や水の供給、気候の安定など、生態系から得られる恵みによって支えられています。

これらの自然の恵み、恩恵のことを、“生態系サービス”と呼んでおり、右図のように4つのタイプに分けられています。





2 開催概要

テーマ 人と湖沼の共生 ―持続可能な生態系サービスを目指して―

会期 平成30年10月15日(月)～19日(金)

会場 つくば国際会議場ほか

公用語 英語及び日本語
原則、各プログラムにおいて日・英同時通訳を行います。

主催 茨城県, (公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)

共催 国土交通省, 環境省, 農林水産省,
土浦市, つくば市, かすみがうら市, 鉾田市, 茨城町, 水戸市,
霞ヶ浦問題協議会, ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

後援

国際連合環境計画(UNEP), 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所,
水循環政策本部, 外務省, 日本学術会議, (独)水資源機構, 滋賀県,
茨城県市長会, 茨城県町村会, 茨城県市議会議長会, 茨城県町村議会議長会,
茨城県河川協会, 茨城県女性団体連盟, 茨城県地域女性団体連絡会,
チャレンジいばらき県民運動, 世界湖沼会議市民の会'18, 茨城大学, 筑波大学,
(国研)農研機構, (国研)土木研究所, (国研)国立環境研究所,
(国研)科学技術振興機構, (国研)産業技術総合研究所, (公社)土木学会,
(公社)農業農村工学会, (公社)日本水産学会, (公社)日本水道協会,
(公社)日本技術士会, (公社)地下水学会, (公社)日本下水道協会,
(公社)日本水環境学会, (公社)日本地球惑星科学連合,
(一社)日本土壌肥料学会, (一社)日本生態学会,
(一社)日本リモートセンシング学会, 日本農学会, 日本陸水学会,
環境経済・政策学会, 応用生態工学会, 日本湿地学会, 日本環境教育学会,
(株)茨城新聞社, 毎日新聞社, 読売新聞社, 東京新聞水戸支局,
(一社)共同通信社, 日本経済新聞社水戸支局, NHK水戸放送局, (株)茨城放送,
日刊工業新聞社

(平成30年8月31日現在 50団体)

※法人名称については、次のとおり略しています。

株式会社	⇒ (株)	有限会社	⇒ (有)	一般財団法人	⇒ (一財)
一般社団法人	⇒ (一社)	公益財団法人	⇒ (公財)	公益社団法人	⇒ (公社)
独立行政法人	⇒ (独)	国立研究開発法人	⇒ (国研)	地方独立行政法人	⇒ (地独)

※大学については、法人名称の記載を省略しています。

3 会議日程

会場	つくば国際会議場					
日程	10月14日(日)	10月15日(月)		10月16日(火)		
8:00		8:00- 受付開始		8:00- 受付開始		
8:30						
9:00	9:00- 受付開始	9:00-17:00		9:00-12:00		9:00-17:00
9:30				9:30-12:00		
10:00	10:00-10:15 学生会議開会式					
10:30	10:20-12:00	10:15-10:30 オープニング演出				
11:00	学生会議 研究取組発表 (中ホール200, 300, 大ホール)	10:30-11:30			政策フォーラム (大ホール)	
11:30		開会式 (大ホール)			分科会	
12:00		11:30-11:50 いばらき震ヶ満賞授与式				
12:30						
13:00	13:00-14:30	展示会 (多目的ホール)				展示会 (多目的ホール)
13:30	学生会議 ポスターセッション (大会議室101, 102)	13:10-14:10			13:00-14:00 分科会ポスター発表 (大会議室101, 102)	
14:00		基調講演 (大ホール)			14:00-17:00	
14:30						
15:00	14:45-16:00 学生会議 ディスカッション (中ホール200, 300, 大ホール)	14:30-17:00		湖沼セッション (国内湖沼) (大ホール)		分科会
15:30		湖沼セッション (国外湖沼) (大ホール)				
16:00						
16:30	16:15-17:00 学生会議閉会式					
17:00						
17:30						
18:00	18:00-20:00	18:00-20:00		18:00-20:00		
18:30	歓迎パーティー (ホテルグランド 東雲「東雲の間」)	レセプション		ワークショップ		
19:00						
19:30						
20:00						

4 参加者へのご案内

(1) 登録区分と登録料

参加登録には、会議の全日程に参加できる「通し参加」料金と1日毎に参加できる「一日参加」料金があります。

		通し参加（単位：円）			一日参加（単位：円）	
		早期	通常	当日	事前	当日
期間		2/5～7/16	7/17～9/14	10/14～10/19	2/5～9/14	10/14～10/19
区分	一般	16,000	18,000	20,000	4,500	5,000
	学生 (大学生・院生)	10,000			2,500	3,000
	同伴者 (親族)	4,000			1,000	
	茨城県民	—			1,000	

《注意》

- ・高校生以下（学生証の提示が必要）は無料です。
- ・多くの茨城県民の方々に参加していただくため、茨城県民特別料金（1日1,000円）を設定します。ただし、茨城県民特別料金での参加者（茨城県内に居住、通勤若しくは通学）は、分科会等での発表はできません。また、プログラム抄録集のみお渡しします。
- ・途上国からの参加者については、途上国料金を設けます。詳細は公式ホームページ（英語版）をご覧ください。
- ・同伴者は参加者の親族のみが対象となります。それ以外の方は個別に参加登録をしていただく必要がありますのでご注意ください。

(2) 受付日時及び会場

日付	受付開始時間	場所
10月14日（日）	9:00	つくば国際会議場 1F エントランスホール
10月15日（月）	8:00*	
10月16日（火）	8:00	
10月17日（水）	8:00 エクスカージョンは7:00	
10月18日（木）	8:00	
10月19日（金）	9:00	

※ 15日（月）の開会式について

- ・警備の都合上、開会式及びいばらき霞ヶ浦賞授与式開催中、会場の大ホールへの入退場ができません。
- ・今後、15日（月）の受付手続きの詳細が決まりましたら、公式ホームページや電子メールによりお知らせいたします。



(3) 受付方法

①事前登録者

9月中に事務局より、メールにて「登録確認書」を送付します。事前登録をされた方はこの「登録確認書」をプリントアウトし、会場にて受付に提示ください。確認書には各自の登録番号と登録区分（通し参加／一日参加／茨城県民特別料金など）が記載されていますので、ご自身の登録区分に該当する受付窓口にお越しください。登録料の支払いについて不備や問い合わせがある方は、受付近くに設けた「インフォメーションデスク」にお越しください。

②当日登録者

当日に参加登録をご希望の方は、「当日登録受付」にお越しください。また、この受付では一日参加登録の追加申込みも可能です。受付にてお渡しします当日登録用紙に必要な事項をご記入後、お支払いの手続きの後に、IDカードやプログラム抄録集等をお渡しいたします。

(4) 注意事項

- ・会場へ到着後、最初に参加登録受付手続きをお済ませください。
- ・IDカードを着用していない方は会場内へ入場できません。会期中、会場へお越しの際は必ずIDカードを着用してください。
- ・参加登録料には以下が含まれます。ただし、茨城県民特別料金でご参加の方はIDカードとプログラム抄録集のみお渡しします。
 - 会議プログラムへの参加（通し参加料金：10/15～19，一日参加料金：10/15～19各日）
 - コンGRESキット（プログラム抄録集、茨城県や共催者のパンフレットなど）
- ・学生会議については、参加無料ですが、受付手続きをしてください。

5 分科会及び霞ヶ浦セッション（ポスター）発表者へのご案内

(1) 口頭発表者の方へのご案内

① PC 受付について

発表者はセッション開始時間の30分前までにつくば国際会議場 1F エントランスホールのPC受付までPC本体又は発表メディア（CD-R，USBフラッシュメモリー）をご持参いただき、来場チェックを受け、発表データの動作確認を行ってください。

また、発表の読み原稿を作成した方は、PC受付にてデータのコピーをご提出ください。

② PC 受付時間

日付	受付開始時間	場所
10月15日（月）	8:00	つくば国際会議場 1F エントランスホール
10月16日（火）	8:00	
10月18日（木）	8:00 (15:40 最終セッション開始)	

③会場入り

- ・受付がお済みになりましたら各セッション開始時間までに会場へお入りください。
- ・ご自身の発表順番をご確認の上、各会場の前列左側に設置されている「次演者席」でお待ちください。

④発表時間

分科会	発表番号 (一般発表)	時間	発表番号 (招待発表)	時間
第1分科会	O1-1～O1-42	発表：15分 質疑応答：5分	TS1-1, TS1-2	発表：30分 質疑応答：10分
第2分科会	O2-1～O2-12		TS2-1, TS2-2	
第3分科会	O3-1～O3-42		TS3-1, TS3-2	
第4分科会	O4-1～O4-12		TS4-1, TS4-2	
第5分科会	O5-1～O5-27		TS5-1, TS5-2	
第6分科会	O6-1～O6-28		TS6-1, TS6-2	
第7分科会	O7-1～O7-28		TS7-1, TS7-2	
第8分科会	O8-1～O8-28		TS8-1, TS8-2	
第9分科会	O9-1～O9-26		TS9-1, TS9-2	



⑤ PC仕様

本会議で準備する PC 仕様は以下のとおりになります。

- ・ OS : Windows10
- ・ アプリケーション : Windows 版 PowerPoint 2016 及び PowerPoint 2013

⑥発表資料作成

PowerPoint の言語は、日本語又は英語としてください。

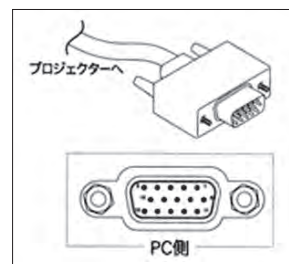
ただし、見出し、キーワード、図表の表記は英語が望ましいです。

< Windows でデータ作成した場合 >

- ・ 発表データは、PC 本体又はメディア (CD-R , USB フラッシュメモリー) でご持参ください。発表データ名は「発表番号_氏名」としてください。
- ・ フォントは OS に標準で装備されているものでお願い致します。画像レイアウトのバランス異常や文字化けを防ぐためにフォントは次のものをご利用ください。
MS (MSP) 明朝 / MS (MSP) ゴシック / Times new Roman / Century
- ・ 会場スクリーンサイズの関係上、スライドのサイズを 4 : 3 で作成してください。画面の解像度は XGA (1024 × 768) まで対応可能です。なお、発表は一面投射とします。
- ・ 動画ファイルを使用される方は、以下の< Windows 動画使用の場合 >をご参照ください。
- ・ 「発表者ツール」機能のご使用はできません。
- ・ 発表データは、会場内の PC に一旦コピーさせていただきますが、会議終了後に事務局が責任を持って消去いたします。

< Macintosh でデータ作成した場合又は Windows 動画使用の場合 >

- ・ PC 本体に発表データを保存し、ご自身でお持参ください。
- ・ 持込 PC は、映像出力端子はミニ D-sub15pin が備わったものをご用意ください。この端子がない PC を持込む場合、変換コネクタを別途、必ずご購入ください。
※ HDMI や Mini DisplayPort などミニ D-sub15pin 以外の接続はお受けできません。
- ・ 発表データを作成した PC と持込 PC が別の場合、本体の液晶画面に動画並び画像が表示されても、実際には外部出力されない場合があります。動画ならびに画像の制限はありませんが、事前に外部出力ができることを必ずご確認ください。
- ・ 動画を使用する場合、Windows Media Player で再生可能なものに限定いたします。プロジェクターで投影できない場合がありますので、特殊な動画コーデックをご使用にならないようご注意ください。
- ・ 「発表者ツール」機能のご使用はできません。
- ・ お持込の PC のスクリーンセーバーならびに省電力設定は、予め解除してください。
- ・ 必ず電源ケーブルをお持ちください。バッテリーでの発表は、バッテリー切れとなることがあります。
- ・ 会場にて用意したプロジェクターと接続できない場合に備え、バックアップ用のデータ (CD-R または USB フラッシュメモリー) をご持参ください。

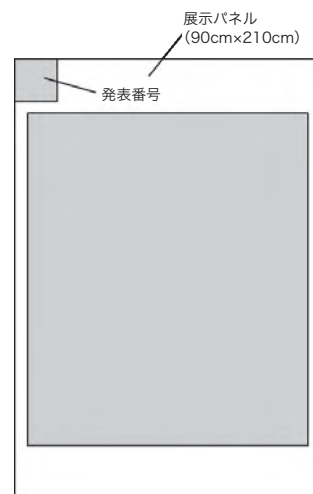


[ミニ D-sub15pin]
コネクタ形状

(2) ポスター発表者の方へのご案内

①ポスターパネル

- ・1題につき、横90cm×縦210cm（床面より）のパネル板と発表番号を下図のように用意します。
- ・貼付け用の備品は、画鋏を用意します。
- ・パネル板の寸法内に収まれば、ポスターの大きさや形式、枚数などは問いません。
- ・ポスターの材質は特に問いませんが、貼り付ける際に画鋏以外のご使用はご遠慮ください。



②ポスター作成

- ・日本人による発表の場合、タイトル及び抄録は日英併記としてください。図表は英語表記が望ましいです。

③ポスター貼付け・撤去日時

- ・貼付け：10月15日（月）14:00-17:00（分科会）
10月16日（火）8:00-9:00（分科会）
10月18日（木）8:00-9:00（分科会、霞ヶ浦セッション）
※貼付けは、発表者自身で行ってください。
受付を済ませてから、ポスター会場へお越しください。

- ・撤去：10月18日（木）15:00以降（分科会）
※撤去は、事務局にて行います。
10月18日（木）17:00-18:00（霞ヶ浦セッション）
※撤去は、発表者自身で行ってください。

④発表日時

<コアタイム>

ポスター番号	分科会	霞ヶ浦セッション
奇数	10月16日（火）13:00-14:00	10月18日（木）12:00-13:00
偶数	10月18日（木）13:00-14:00	10月18日（木）13:00-14:00

<自由閲覧>

分科会	霞ヶ浦セッション
10月16日（火）9:00-18:00	10月18日（木）9:00-17:00
10月18日（木）9:00-15:00	

⑤注意事項

撤去したポスターは10月19日（金）の14:00までインフォメーションデスクにて保管します。10月19日（金）14:00を過ぎて受け取りに来られない場合、事務局で処分させていただくことをご了承ください。



6 プログラム

(1) 開会式

日時	平成30年10月15日(月) 10:30-11:30 ※ 10:15-10:30 オープニング演出
会場	つくば国際会議場 大ホール

(2) いばらき霞ヶ浦賞授与式

日時	平成30年10月15日(月) 11:30-11:50
会場	つくば国際会議場 大ホール
概要	茨城県では、開発途上国の10件以内の優れた論文に対していばらき霞ヶ浦賞(賞状及び副賞)を授与します。

(3) 基調講演

日時	平成30年10月15日(月) 13:10-14:10
会場	つくば国際会議場 大ホール
演題	地球環境の変動と湖沼の未来
講演者	三村 信男 茨城大学長
講演概要	私達にとって身近な自然である湖沼は、周辺からの汚濁流入などと最近顕在化してきた地球温暖化の影響という2つの圧力にさらされています。人と湖沼が共生する、望ましい未来を生み出すために、私達は何をすべきでしょうか。この講演では、湖沼自身のもつ環境適応力を活かすことや、豊かな食材や美しい景観といったトータルな湖沼環境の活用の大切さについて考えます。

(4) 政策フォーラム

日時	平成30年10月16日(火) 9:30-12:00
会場	つくば国際会議場 大ホール
概要	発表を踏まえコーディネーターを中心に国内外の政策責任者による討議を行い、最後に今後の湖沼環境保全政策の方向性について総括します。

- 【発表】発表者：大井川 和彦 茨城県知事
国土交通省水管理・国土保全局長
環境省水・大気環境局長
農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官
Keith Alverson 国際連合環境計画国際環境技術センター所長
Gábor Molnár バラトン湖開発評議委員会マネージングディレクター
- 【討議】テーマ：政策責任者の立場から世界湖沼会議のメインテーマである「人と湖沼の共生」について議論します。
コーディネーター：松井 三郎 世界湖沼会議企画推進委員会委員長
パネリスト：上記発表者

(5) 会議総括

日時	平成30年10月19日(金) 10:00-12:00
会場	つくば国際会議場 大ホール

(6) 閉会式

日時	平成30年10月19日(金) 13:00-14:00
会場	つくば国際会議場 大ホール

(7) 湖沼セッション

国内外の湖沼流域関係者の情報共有を図り、流域内及び流域間連携を推進するために、国内外の主要な湖沼流域の市民、行政、研究者及び企業等が活動内容や施策等について討議します。

テーマ 「人と湖沼の共生～持続可能な生態系サービスを目指した流域内及び流域間連携のあり方～」

◆ 湖沼セッション（国外湖沼）

日時 平成 30 年 10 月 15 日（月）14:30-17:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

日程表

時間	項目	概要
14:30-15:30	事例発表	事例発表（20分×3名）
15:30-15:50		休憩（コーヒープレイク）
15:50-16:10		事例発表に対するコメンテーターコメント（10分×2名）
16:10-17:00	パネルディスカッション	・パネリスト（事例発表者、コメンテーター）とコーディネーターによる討議 ・意見・情報交換 ・セッション総括

内容

・事例発表

内容	湖沼流域管理をめぐる取組の経緯と現状及び今後の展望をオセアニア、アフリカ、ラテンアメリカにおける事例を中心に紹介	
発表1（20分）	Colin Finlayson	チャールズ・スタート大学教授
発表2（20分）	Daniel Olago	ナイロビ大学教授
発表3（20分）	Alejandro Juárez Aguilar	NGO コラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長

・パネルディスカッション

内容	世界の湖沼と生態系サービスを巡る動向について討議します。	
コーディネーター	中村 正久（公財）国際湖沼環境委員会副理事長	
パネリスト	<input type="radio"/> コメンテーター ・Ajit Pattnaik ウェットランズ・インターナショナル南アジア副会長 ・Walter Rast テキサス州立大学名誉教授 <input type="radio"/> 事例発表者 ・Colin Finlayson チャールズ・スタート大学教授 ・Daniel Olago ナイロビ大学教授 ・Alejandro Juárez Aguilar NGO コラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長	



◆ 湖沼セッション（国内湖沼）

日時 平成 30 年 10 月 16 日（火） 13:10-17:15

会場 つくば国際会議場 大ホール

日程表

時間	項目	概要
13:10-14:30	事例発表	事例発表（10分×8名）
14:30-14:50	質問	会場からの質疑応答
14:50-15:20		休憩（コーヒープレイク）
15:20-16:15		コーディネーターによる導入（5分） パネリスト発表（10分×5名）
16:15-17:15	パネルディスカッション	・パネリスト（事例発表者、コメンテーター）とコーディネーターによる討議 ・意見・情報交換 ・セッション総括

内容

・事例発表

内容	
	持続可能な生態系サービスを目指した各湖沼の様々な主体の連携した取組の現状や施策、今後の課題、課題解決に向けた展望等について発表
発表 1（10分）	谷萩 八重子 第 17 回世界湖沼会議サテライトひぬま実行委員会副委員長 ※茨城町サテライト会場からの報告
発表 2（10分）	櫻場 誠二 水戸市環境フェア実行委員会世界湖沼会議サテライト専門部会副部長 ※水戸市サテライト会場からの報告
発表 3（10分）	尾崎 昂希 NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA） 琵琶湖オオバナミズキンバイ対策チーム長
発表 4（10分）	近藤 昭彦 千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授
発表 5（10分）	大西 真人 （株）日立製作所水ビジネスユニット水事業部 CTO
発表 6（10分）	小松 直樹 滋賀県理事
発表 7（10分）	小田野 直光 秋田県仙北市総務部地方創生・総合戦略統括監
発表 8（10分）	出雲 充 （株）ユージェナ代表取締役社長

・パネルディスカッション

内容	
	持続可能な生態系サービスを目指して、流域内及び流域間連携を推進するために各主体がどう連携していくべきか討議します。
コーディネーター	福島 武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト	○パネリスト発表者 ・中村 正久 （公財）国際湖沼環境委員会副理事長 ・熊谷 和哉 環境省水・大気環境局水環境課長 ・岩井 聖 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課企画専門官 ・井手 慎司 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授 ・奥田 昇 総合地球環境学研究所准教授 ○事例発表者 ・尾崎 昂希 NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA） 琵琶湖オオバナミズキンバイ対策チーム長 ・大西 真人 （株）日立製作所水ビジネスユニット水事業部 CTO

(8) 霞ヶ浦セッション

霞ヶ浦における流域内連携を推進するために、霞ヶ浦流域関係者が霞ヶ浦の抱える様々な課題を共有し、持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に連携して取組むための討議を行います。

テーマ 「霞ヶ浦の未来像について」

日時 平成 30 年 10 月 18 日（木） 9:30-17:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

日程表

時間	項目	概要
9:30-10:15	事例発表①	事例発表（15分×3名）
10:15-10:30	質問	会場からの質疑応答
10:30-10:50		休憩（コーヒープレイク）
10:50-11:40	事例発表②	事例発表（10分×5名）
11:40-11:55	質問	会場からの質疑応答
12:00-14:00	ポスター発表	大ホール前ホワイエ
14:05-14:55	事例発表③	事例発表（10分×5名）
14:55-15:10	質問	会場からの質疑応答
15:10-15:30		休憩（コーヒープレイク）
15:30-17:00	パネルディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表に対するパネリストコメント ・パネリストとコーディネーターによる討議 ・意見・情報交換 ・セッション総括

内容

・事例発表①

内容	
	第6回会議からの霞ヶ浦を取り巻く現状変化やこれまでの取組と成果、現在の課題や課題解決に向けた展望について発表
発表1(15分)	桑名 美恵子 茨城県県民生活環境部次長
発表2(15分)	辰野 剛志 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所長
発表3(15分)	江幡 一弘 茨城県霞ヶ浦環境科学センター副センター長

・事例発表②

内容	
	霞ヶ浦から恩恵を受けている方々から取組の現状や課題、課題解決に向けた展望について発表
発表1(10分)	伊藤 一郎 霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長
発表2(10分)	飯田 公巳 JA 土浦蓮根本部会
発表3(10分)	但田 賢哉 新日鐵住金(株)鹿島製鐵所安全環境防災部環境防災室長
発表4(10分)	今野 浩紹 (株)かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役
発表5(10分)	藤原 正子 茨城県生活学校連絡会会長



・事例発表③

内 容	市民団体の発表やサテライト会場からの意見集約
発表1(10分)	滝下 利男 世界湖沼会議市民の会 '18 副会長
発表2(10分)	阿部 彰 (一社)霞ヶ浦市民協会, 第17回世界湖沼会議サテライトつちうら実行委員会委員長 ※土浦市サテライト会場からの報告
発表3(10分)	千葉 隆司 かすみがうら市歴史博物館係長(学芸員) ※かすみがうら市サテライト会場からの報告
発表4(10分)	大木 繁夫 銚田市まちづくり推進会議自然環境部会部会長 ※銚田市サテライト会場からの報告
発表5(10分)	助川 太一 茨城県立竹園高等学校 ※学生会議・発表団体からの報告

・パネルディスカッション

内 容	事例発表により霞ヶ浦を取り巻く現状と問題点を把握するとともに課題を共有した上で、霞ヶ浦流域関係者が持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に取り組むための討議を行います。
コーディネーター	福島 武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中村 正久 (公財)国際湖沼環境委員会副理事長 ・桑名 美恵子 茨城県県民生活環境部次長 ・辰野 剛志 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所長 ・伊藤 一郎 霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長 ・但田 賢哉 新日鐵住金(株)鹿島製鐵所安全環境防災部環境防災室長 ・今野 浩紹 (株)かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役 ・滝下 利男 世界湖沼会議市民の会 '18 副会長

◆ 霞ヶ浦セッション（ポスター）

日時

<自由閲覧>

平成 30 年 10 月 18 日（木） 9:00-17:00

<コアタイム>

【発表番号末尾奇数】平成 30 年 10 月 18 日（木） 12:00-13:00

【発表番号末尾偶数】平成 30 年 10 月 18 日（木） 13:00-14:00

会場

つくば国際会議場 大ホール前ホワイエ

プログラム

- KP-1 参加者に求められる水環境学習を目指して
長手 勇樹（土浦市市民生活部環境保全課, 日本）
- KP-2 観光資源としての霞ヶ浦
阿久津 源英（土浦市役所商工観光課, 日本）
- KP-3 霞ヶ浦を活かしたシティプロモーション
武藤 知子（土浦市広報広聴課, 日本）
- KP-4 土浦市の高度処理型浄化槽設置及び転換促進へ向けた取り組み
宇佐美 浩平（土浦市市民生活部環境保全課, 日本）
- KP-5 土浦市における生活排水対策の効果
藤原 隆司（土浦市市民生活部環境保全課, 日本）
- KP-6 備前川における生活排水路水質調査
小松崎 佑介（土浦市市民生活部環境保全課, 日本）
- KP-7 土浦市における工場・事業場排水対策の取り組み
永峯 弘規（土浦市市民生活部環境保全課, 日本）
- KP-8 市民による霞ヶ浦流入河川水質調査について
伊藤 良子（霞ヶ浦問題協議会, 日本）
- KP-9 霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦について
宮本 清（霞ヶ浦問題協議会, 日本）
- KP-10 恋瀬川探検隊事業について
亀井 比志子（恋瀬川探検隊連絡会議, 日本）
- KP-11 園部川における生物多様性保全活動
羽生 勇（横浜ゴム（株）茨城工場, 日本）
- KP-12 水を基軸とした認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会による里山保全活動
及川 ひろみ（認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会, 日本）
- KP-13 霞ヶ浦における市民参加型モニタリングと淡水魚保全活動
諸澤 崇裕（土浦の自然を守る会, 日本）
- KP-14 2000 年以降に霞ヶ浦流域で確認された外来魚オオタナゴ（コイ科）、コウライギギ（ギギ科）、ダントウボウ（コイ科）、カダヤシ（カダヤシ科）
萩原 富司（土浦の自然を守る会, 日本）
- KP-15 市民参加による実践型の霞ヶ浦水質浄化啓発事業について
栗野 哲雄（霞ヶ浦水辺ふれあい事業実行委員会, 日本）
- KP-16 霞ヶ浦湖心におけるバクテリア生産動態と炭素収支
土屋 健司（(国研) 国立環境研究所, 日本）

※所属及び氏名については、発表者から提出いただいた情報を掲載しています。



- KP-17 霞ヶ浦（西浦）におけるユスリカ幼虫の長期変遷
中里 亮治（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター，日本）
- KP-18 霞ヶ浦底質中における深度別の細菌叢解析
對馬 育夫（(国研) 土木研究所，日本）
- KP-19 硝酸イオンの窒素 ($\delta^{15}\text{N}$)・酸素 ($\delta^{18}\text{O}, \Delta^{17}\text{O}$) 安定同位体を指標とした
霞ヶ浦用水を灌漑水源とする森林－水田集水域における窒素動態評価
中島 泰弘（(国研) 農研機構農業環境変動研究センター／(国研) 農研機構高度解析センター，日本）
- KP-20 浚渫土を有効利用した前浜造成について
片岡 稔温（(独) 水資源機構利根川下流総合管理所環境課長，日本）
- KP-21 モニタリングデータが語る霞ヶ浦の水質変化
小松 一弘（(国研) 国立環境研究所，日本）
- KP-22 光の波長と強度の違いが放線菌 (*Streptomyces coelicolor* A3(2)) の geosmin 産生に
与える影響
内海 真生（筑波大学生命環境系，日本）
- KP-23 高度化した水循環機構下にある霞ヶ浦流入河川・桜川流域の水環境
－多地点電気伝導率観測による水質実態の可視化－
吉川 慎平（大同大学大学院，日本）
- KP-24 霞ヶ浦湖底堆積物に見られる津波・洪水記録
井内 美郎（早稲田大学人間科学学術院，日本）
- KP-25 霞ヶ浦研究会の歩みと役割：霞ヶ浦に関わる情報交流の場の展望
山根 幸美（霞ヶ浦研究会，日本）
- KP-26 利根川水系桜川の水質改善に向けた水環境の現状と課題
熊田 千春（大正大学仏教学部，日本）
- KP-27 筑波研究学園都市の成長による近隣湖沼への雨水流出負担の変化
仲村 健（筑波大学，日本）
- KP-28 霞ヶ浦湖岸域のチドリ科の鳥について
野尻 智治（境町役場，日本）
- KP-29 ハス田における防鳥ネット管理方法とカモ類の侵入状況および食害との関係
小松崎 将一（茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター，日本）
- KP-30 蓮田の野鳥羅網被害を考える
～ラムサール条約登録湿地になれない理由の考察～
金澤 まち子（日本野鳥の会，日本）
- KP-31 流域における1人当たりの流出量変化解析 - 霞ヶ浦流域を例として
馬 東来（筑波大学，中国）
- KP-32 霞ヶ浦（北浦）におけるユスリカ幼虫密度の長期変化
パク ソウン（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター，日本）
- KP-33 銚田地域における地下水中の硝酸態窒素濃度と土地利用及び畜産関連施設との関係
江口 定夫（(国研) 農研機構農業環境変動研究センター，日本）
- KP-34 全球湖沼流域気候 Web アプリケーション :CGLB でどこまで霞ヶ浦の情報を取得
できるか
仲江川 敏之（気象研究所，日本）
- KP-35 霞ヶ浦の環境に関する取り組みへの各種地理空間情報の整備・提供
根本 正美（国土交通省国土地理院，日本）

(9) 各分科会の日程表

研究者や市民団体等が9つの分科会において論文や活動成果の発表及び討議を行います。

日程・時間		会場			
		第1分科会 中ホール200	第2分科会 中会議室201A	第3分科会 中ホール300	第4分科会 小会議室404
10/16 (火)	9:00-10:20	〈セッション1〉 生物多様性1	〈セッション1〉 水資源と水質	〈セッション1〉 水質改善対策技術	〈セッション1〉 水辺空間の 活用と保全
	10:20-10:40	休憩			
	10:40-12:00	〈セッション2〉 生物多様性2	〈セッション2〉 環境変化の 水資源への影響	〈セッション2〉 湖沼生態系 モニタリング1	〈セッション2〉 霞ヶ浦の歴史と市民活動
	12:00-14:00	休憩			
	14:00-15:20	〈セッション3〉 生物多様性3	〈セッション3〉 湖沼の状態と管理	〈セッション3〉 湖沼生態系 モニタリング2	〈セッション3〉 持続可能な観光まちづくり
	15:20-15:40	休憩			
	15:40-17:00	〈セッション4〉 生態系サービス	〈セッション4〉 流域の変化と水資源	〈セッション4〉 植物プランクトンの 動態とアオコ1	〈セッション4〉 アジアにおける 水系と生活文化

日程・時間		会場			
		第1分科会 中ホール200	第1分科会 中会議室201A	第3分科会 中ホール300	第3分科会 小会議室404
10/18 (木)	9:00-10:20	〈セッション5〉 生物多様性4	〈セッション9〉 水産・漁業1	〈セッション5〉 植物プランクトンの 動態とアオコ2	〈セッション9〉 化学物質の 挙動と対策
	10:20-10:40	休憩			
	10:40-12:00	〈セッション6〉 生物多様性5	〈セッション10〉 水産・漁業2 ※10:40-11:20	〈セッション6〉 気候変動影響	〈セッション10〉 水質モニタリング1
	12:00-14:00	休憩			
	14:00-15:20	〈セッション7〉 侵入外来生物1	〈セッション11〉 保全・管理・再生1	〈セッション7〉 有機物の動態	〈セッション11〉 水質モニタリング2 ※14:40-15:20
	15:20-15:40	休憩			
	15:40-17:00	〈セッション8〉 侵入外来生物2	〈セッション12〉 保全・管理・再生2	〈セッション8〉 底泥堆積物と 一次生産	〈セッション12〉 湖沼生態系の諸問題



第5分科会 中会議室202A	第6分科会 小会議室303	第7分科会 小会議室406	第8分科会 中会議室201B	第9分科会 小会議室304
〈セクション1〉 安定同位体	〈セクション1〉 環境モニタリング	〈セクション1〉 湖沼モニタリングと 水質改善	〈セクション1〉 市民参加と協働1	〈セクション1〉 湖沼河川湾岸流域 ガバナンス ※9:40-10:20
		休憩		
〈セクション2〉 窒素汚染起源	〈セクション2〉 長期モニタリング データの解析	〈セクション2〉 生態系サービス	〈セクション2〉 市民参加と協働2	〈セクション2〉 ILBMと湖沼流域 ガバナンス1
		休憩		
〈セクション3〉 水質浄化対策	〈セクション3〉 測定方法	〈セクション3〉 生態毒性	〈セクション3〉 市民参加と協働3	〈セクション3〉 ILBMと湖沼流域 ガバナンス2
		休憩		
〈セクション4〉 土地利用・農業技術	〈セクション4〉 リモートセンシング による湖沼の モニタリング	〈セクション4〉 浄水処理	〈セクション4〉 市民参加と協働4	〈セクション4〉 ILBMの組織体制 とその分類1

第5分科会 中会議室202A	第6分科会 小会議室303	第7分科会 小会議室406	第8分科会 中会議室201B	第9分科会 小会議室304
〈セクション5〉 森林保全	〈セクション5〉 人為的影響の モニタリング	〈セクション5〉 水質保全対策	〈セクション5〉 生態系保全	〈セクション5〉 生態系サービス分析1
		休憩		
〈セクション6〉 リン循環	〈セクション6〉 新規物質の モニタリング	〈セクション6〉 排水処理	〈セクション6〉 教育プログラム と実践1	〈セクション6〉 生態系サービス分析2
		休憩		
〈セクション7〉 バイオマス	〈セクション7〉 データ解析と モデリング	〈セクション7〉 排水処理/水草	〈セクション7〉 教育プログラム と実践2	〈セクション7〉 気候変動の影響
		休憩		
〈セクション8〉 化学物質 ※15:40-16:40	〈セクション8〉 プランクトンと 溶存有機物の動態	〈セクション8〉 衛生環境	〈セクション8〉 教育プログラム と実践3	〈セクション8〉 ILBMの組織体制 とその分類2

◆ 分科会（口頭）

プログラム

第1分科会：生物多様性と生物資源

湖沼、湿地、河川及び水辺等の生物多様性や生物資源に焦点をあて、その価値や現状の評価、保全のあり方等について討議します。

日時 10月16日（火）9:00-17:00, 10月18日（木）9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中ホール 200（10月16日, 10月18日）,
中会議室 201A（10月18日）

10月16日（中ホール 200）

9:00-10:20 第1セッション 「生物多様性 1」

座長：吉田 丈人（総合地球環境学研究所／東京大学）

O1-1 タイ国チェンマイにあるメイクアン貯水池における植物プランクトンの垂直分布とその水質との関係

Tatporn Kunpradid (Biology Department, Faculty of Science and Technology, Chiang Mai Rajabhat University / Centre of Excellence of Biodiversity Research and Implementation for Community, Chiang Mai Rajabhat University, タイ)

O1-2 北ジャカルタ、Gold Coast 湖における植物プランクトン群集構造と水質との関係
Aliati Iswantari (Bogor Agricultural University, インドネシア)

O1-3 フィリピンのマラウイ市に沿ったラナオ湖沿岸の植物プランクトン群集
Husna Abdullah Dimapalao (Mindanao State University, フィリピン)

O1-4 アブハジア共和国（コーカサス）の湖沼および河川の類型学と分類学的多様性
Nafisa Mingazova (Kazan (Volga region) Federal University, ロシア)

10:40-12:00 第2セッション 「生物多様性 2」

座長：吉田 丈人（総合地球環境学研究所／東京大学）

O1-5 バリ島、バラタン湖産の *Rasbora* sp (Cyprinidae) の現状無評価種の DNA バーコーディングによる同定

Gde Raka Kartika Kartika (Udayana University, Bali, インドネシア)

O1-6 eDNA 解析を使用したスポッテッドバーブ（バルブスビノティタス）の分布をモニタリングするための特異的マーカーの開発

Sekar Larashati (Research Center for Limnology, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), インドネシア)

TS1-1 ※発表タイトルについては、調整中

招待講演 馬淵 浩司（(国研) 国立環境研究所琵琶湖分室, 日本）

※タイトルの和訳は、事務局にて行っております。

※所属及び氏名については、発表者から提出いただいた情報を掲載しています。

※プログラムについては、当日まで変更する可能性があります。随時公式ホームページをご確認ください。



14:00-15:20 第3セッション 「生物多様性3」

座長：傳田 正利（(国研) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム）

- O1-7 熱汚染湖沼に基づく動物プランクトン群への気候変動の影響予測
Marcin Dziuba (Adam Mickiewicz University in Poznan, ポーランド)
- O1-8 都市の浅い湖における動物プランクトン個体数とバイオマスサイズスペクトル：レーザー光プランクトンカウンターを用いた分析
Reliana Lumban Toruan (University of Western Australia / Research Centre for Limnology, Indonesian Institute of Sciences, インドネシア)
- O1-9 都市部の水質評価における動物プランクトン
Olga Yurjevna Derevenskaia (Kazan Federal University, ロシア)
- O1-10 グランド・エチオピアン・ルネッサンス・ダム (GERD) 注水前のナセル湖動物プランクトン群集に及ぶナイル川氾濫の影響
Mahmoud H Hegab (Freshwater and Lakes Division, National Institute of Oceanography and Fisheries, エジプト)

15:40-17:00 第4セッション 「生態系サービス」

座長：山野 博哉（(国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター）

- O1-11 主に植物多様性、生態系の恩恵、脅威、管理戦略に照らしたインド・マハーラーシュトラ州南西部の湿地の状態
Chandrakant Baburao Salunkhe (Krishna Mahavidyalaya, インド)
- O1-12 ジャフナ・ラグーンの持続可能な生態系管理に対する漁師の支払い意欲
Sooriyakumar Krishnapillai (Department of Agricultural Economics, Faculty of Agriculture, University of Jaffna, スリランカ)
- O1-13 生態系サービスを叙述する科学的根拠は、保護区管理者と地元の依存コミュニティの対立を効果的に解消できるか？ インドの国際的に重要な湿地帯であるチリカ湖のナラバン鳥類保護区：ケーススタディ
Ajit Kumar Pattnaik (Wetlands International South Asia / Scientific Committee, ILEC Foundation, インド)
- O1-14 霞ヶ浦の生態系サービスの経済評価と評価手法の課題
北村 立実（茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本）

10月18日（中ホール200）

9:00-10:20 第5セッション 「生物多様性4」

座長：西廣 淳（東邦大学理学部生命圏環境科学科）

- O1-15 スリランカの湖沼、貯水地および集水域沿いの保護に向けた河畔植生種としての *Terminalia arjuna*
D.A.B.N Amarasekera (Department of crop science, Faculty of Agriculture, University of Ruhuna, スリランカ)
- O1-16 霞ヶ浦における湖岸植生帯の現状について
小野 正人（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所湖沼環境課, 日本）
- O1-17 琵琶湖における冬季の水位と沈水植物群落の変遷に関する考察
古賀 勝之（(独) 水資源機構琵琶湖開発総合管理所, 日本）

O1-18 霞ヶ浦湖岸域のハス田におけるチドリ科及びシギ科の鳥の生息状況
野尻 智治 (境町役場, 日本)

10:40-12:00 第6セッション 「生物多様性5」

座長：吉田 丈人 (東京大学総合文化研究科)

O1-19 フィリピン・南アグサン州の4つの湖沼とその周辺の脊椎動物相の種の豊富さおよび固有性

Olga M. Nuneza (Department of Biological Sciences, MSU-Iligan Institute of Technology, フィリピン)

O1-20 霞ヶ浦における淡水二枚貝類の生息状況とその遷移

鈴木 興道 (日本)

TS1-2

招待講演

日本における湖沼の生物多様性評価や生態系保全のための研究の現状と将来

高村 典子 ((国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター琵琶湖分室, 日本)

14:00-15:20 第7セッション 「侵入外来生物1」

座長：傳田 正利 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム)

O1-21 東南アジアの少数の選定された湖および貯水池における大型植物の多様性と分布に関する空間分析 - 特にマレーシア、インドネシア、ミャンマーに関して -

Siti Norasikin Ismail (SCHOOL OF BIOLOGICAL SCIENCES, UNIVERSITI SAINS MALAYSIA, マレーシア)

O1-22 天竜川水系における河川敷の草原植生に成立する希少植物群落の構造と外来植物との関係

中原 美穂 (信州大学, 長野県, 日本)

O1-23 急拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイ等への対策：琵琶湖における取組事例

中井 克樹 (滋賀県, 日本)

O1-24 霞ヶ浦周辺地域における特定外来生物カワヒバリガイの現状と対策

伊藤 健二 ((国研) 農研機構農業環境変動研究センター, 日本)

15:40-17:00 第8セッション 「侵入外来生物2」

座長：西廣 淳 (東邦大学理学部生命圏環境科学科)

O1-25 スリランカの侵入魚種であるスポットテッド・ナイフフィッシュ (硬骨魚類, ナイフフィッシュ) の栄養状態とその侵入によるベントタ川支流の魚の多様性への影響

Wimal Ananda Heenatigala Palliya Guruge (DEPARTMENT OF ZOOLOGY, FACULTY OF SCIENCE, UNIVERSITY OF RUHUNA, MATARA, スリランカ)

O1-26 西オーストラリアから侵入したシラハマオーストラリアカブトエビ *Triops strenuus* Wolf, 1911 は日本の水田の新たな脅威となりうるか？

長縄 秀俊 (岐阜大学大学院連合農学研究科, 日本)

O1-27 インドネシアにおけるレッドクロー (Cherax quadricarinatus) の繁殖

Yusli Wardiatno (Bogor Agricultural University (IPB), インドネシア)

O1-28 生態学的障害および水界生態系の孤立——タイ・チェンマイにおける蚊個体群およびその天敵への影響

Panida Rahong (Environmental Science Program, Faculty of Science, Chiang Mai University, Chiang Mai, タイ)



10月18日(中会議室 201A)

9:00-10:20 第9セッション 「水産・漁業1」

座長：馬淵 浩司 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室)

O1-29 ガーナ・ヴォルタ湖の水産養殖生産の概要

Isaac Nyameke (Ghana Aquaculture and Fish Network, ガーナ)

O1-30 エジプト・ナセル湖における商用魚種の体長・体重パラメータおよび条件因子の時空変化

Walid Aly (WorldFish and National Institute of Oceanography and Fisheries, エジプト)

O1-31 霞ヶ浦のワカサギ資源変動要因の抽出及び早期資源評価モデルについて

所 史隆 (茨城県水産試験場内水面支場, 日本)

O1-32 淡水コミュニティ漁業を強化するためのツールとしての魚類保護区域：トンレサップからのプロジェクト経験

Pheakdey Sorn (Water and Wetlands Coordinator, IUCN Cambodia, カンボジア)

10:40-11:20 第10セッション 「水産・漁業2」

座長：馬淵 浩司 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室)

O1-33 水産養殖の環境収容力モデルの乱開発される大規模湖への適用

Bardukh Gabrielyan (Scientific Center of Zoology and Hydroecology, アルメニア)

O1-34 ヴォルタ湖漁業の物質収支モデル (エコパスモデルの使用)

Emmanuel Tetteh-Doku Mensah (CSIR-Water Research Institute, ガーナ)

14:00-15:20 第11セッション 「保全・管理・再生1」

座長：吉田 丈人 (東京大学総合文化研究科)

O1-35 南コーカサスにおける生物学的多様性に関する協定下の責務履行の評価

Alla Khosrovyan (University of Cadiz, アルメニア)

O1-36 環境保全型農業がもたらす水田の生物多様性の保全効果の検証

片山 直樹 ((国研) 農研機構・農業環境変動研究センター, 日本)

O1-37 河原固有の絶滅危惧植物、カワラノギクのメタ個体群の再生

倉本 宣 (明治大学農学部, 日本)

O1-38 湖沼流域スケールにおける水生植物再生のための流域支川活用に関する一提案

傳田 正利 ((国研) 土木研究所, 日本)

15:40-17:00 第12セッション 「保全・管理・再生2」

座長：山野 博哉 ((国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター)

O1-39 内水漁業および養殖における生物多様性の主流化 (特に湿地帯に重点をおいて) 一範囲と課題

Rupam Mandal (Centre for Biodiversity Policy and Law (CEBPOL), National Biodiversity Authority, Ministry of Environment, Forest & Climate Change, Chennai, インド)

O1-40 琵琶湖の湖辺域における二枚貝を評価指標とした水環境改善手法の検討について

井上 栄壮 (滋賀県, 日本)

O1-41 地域知を用いたヤマトシジミの生息地の再生：久々子湖の事例
宮本 康（福井県里山里海湖研究所，日本）

O1-42 「里浜づくり」で泳げる霞ヶ浦を
伊藤 春樹（（一社）霞ヶ浦市民協会，日本）

第2分科会：淡水資源の持続的利用

湖沼における水資源の持続的な利用に焦点をあて、流域において湖沼が持つ水収支や河川流量の調整機能（水量に関わる事項）、流域からの汚染物質や土砂の流入、化学物質による汚染、富栄養化（水質に関わる事項）、及び湖沼の管理等について討議します。

日時 10月16日（火）9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201A

9:00-10:20 第1セッション 「水資源と水質」

座長：天野 邦彦（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部）

片岡 稔温（（独）水資源機構利根川下流総合管理所環境課）

O2-1 ビクトリア湖ニャンザ湾におけるバイオフィェンスによる飲料水浄化 — LAVICORD project の結果より—
板山 朋聡（長崎大学工学研究科，日本）

O2-2 桜川及び千波湖における霞ヶ浦導水事業による水質改善
金井 聖（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦導水工事事務所，日本）

TS2-1 ※発表タイトルについては、調整中
招待講演 András Szöllősi Nagy (National University for Public Service (NUPS), ハンガリー)

10:40-12:00 第2セッション 「環境変化の水資源への影響」

座長：梅田 信（東北大学大学院工学研究科）

天野 邦彦（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部）

O2-3 国境にまたがる湖沼と貯水池に対する脅威評価
Walter Rast (Meadows Center for Water and Environment, Texas State University, Texas USA and ILEC Scientific Committee, Japan, 米国)

O2-4 気象要素の変化に対する琵琶湖成層構造の感度解析
公江 仁一（大阪大学大学院工学研究科，日本）

O2-5 エジプトの限られ、脅かされた水資源における持続可能性の課題
Talaat Tahir El-Gamal (Water Management Research Institute - National Water Research Center, エジプト)

O2-6 バングラデシュ・ハオール盆地の湖沼における変動気候への行動について
Sanowar Hossain (Bangladesh POUSH, バングラデシュ)



14:00-15:20 第3セッション 「湖沼の状態と管理」

座長：矢島 啓（島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター）
梅田 信（東北大学大学院工学研究科）

TS2-2 日本における流域の水循環・水資源管理の展開と課題
招待講演 渡邊 紹裕（京都大学大学院地球環境学堂，日本）

- O2-7 ロシア連邦の湖沼資源、空間的不均一性と明らかになった傾向
Anna Izmailova (Institute of Limnology Russian Academy of Sciences, ロシア)
- O2-8 マレーシア・セランゴール州の水資源がエルニーニョから受ける影響を軽減するためのセランゴールダムと採掘場跡の池の統合管理方法
Mazlan Bin Idrus (Selangor Waters Management Authority, マレーシア)

15:40-17:00 第4セッション 「流域の変化と水資源」

座長：矢島 啓（島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター）
小栗 幸雄（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所）

- O2-9 マニンジャウ湖集水域における水文応答に対する土地利用土地被覆変化の影響
Iwan Ridwansyah (Research center for limnology, Indonesian Institute of Sciences, インドネシア)
- O2-10 湖沼経済を通じた地域社会の持続可能な開発
Mangesh Kashyap (Society for Environment Education Research and Management (SEERAM), Maharashtra, Pune, インド)
- O2-11 トンレサップ湖流域における土壌タイプ、傾斜度および土地利用変化が土砂負荷に及ぼす影響
佐藤 路鷹（東京工業大学環境社会理工学院土木環境工学科，日本）
- O2-12 フィリピンの首都マニラの西側地域での主要地表水資源と処置施設に対する気候変動の影響
Benjamin Villa (Maynilad Water Services, Inc., フィリピン)

第3分科会：湖沼の水質と生態系機能

湖沼の水質に焦点をあて、湖内の生態系がもつ機能である水質浄化能、微生物生産、有機物分解、底泥酸素消費、底泥溶出等について討議します。

日時 10月16日（火）9:00-17:00, 10月18日（木）9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中ホール 300（10月16日, 10月18日）,
小会議室 404（10月18日）

10月16日（中ホール 300）

9:00-10:20 第1セッション 「水質改善対策技術」

座長：高津 文人（（国研）国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川研究室）

- O3-1 風および風成流を利用した無動力水循環システムの浅いダムへの応用
Yeouju Jang (University of Science and Technology (UST, KICT school), 韓国)
- O3-2 堆積物改善と湖沼再生のための酸素ナノバブル土壌改良（MLS）技術
Gang Pan (Research Center for Eco-environmental Sciences, Chinese Academy of Sciences, Beijing / Nottingham Trent University, UK, 中国)

- O3-3 水質浄化技術における実証試験場所の選定と評価手法
山岸 知彦 ((一社) 埼玉県環境検査研究協会, 日本)
- O3-4 湖沼における吐出し効果によるアオコ浄化対策に関する基礎的研究
柿沼 太貴 (中央大学理工学研究科, 日本)
- 10:40-12:00 第2 セクション 「湖沼生態系モニタリング 1」
座長: 内海 真生 (筑波大学生命環境系)
- O3-5 熱帯氾濫原湖における洪水パルスが水生生物生息動態に及ぼす影響 – インドネシア・カリマンタン, センタルン湖地域におけるケーススタディー
Hidayat Hidayat (Research Center for Limnology, Indonesian Institute of Sciences, インドネシア)
- O3-6 インドネシア西スマトラ州のマニンジャウ湖における溶存酸素の統計データとその問題
Luki Subehi (Research Centre for Limnology, Indonesian Institute of Sciences, インドネシア)
- O3-7 霞ヶ浦外浪逆浦の浚渫窪地での水温成層形成とそれによる水質への影響
中川 圭太 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- O3-8 支流におけるケイ素の時空間分布に対する三峡ダムの影響: 香溪河による証拠
Yonghong Bi (Institute of Hydrobiology, Chinese Academy of Sciences, 中国)
- 14:00-15:20 第3 セクション 「湖沼生態系モニタリング 2」
座長: 今井 章雄 ((国研) 国立環境研究所)
- TS3-1** **招待講演** 世界規模の炭素循環における陸水系の役割における富栄養化・せき止め・気候変動の相互作用
Yves Prairie (UNESCO Chair in Global Environmental Change, Department of biological Sciences, UQAM, Montreal, カナダ)
- O3-9 秋田県八郎湖における魚類による藍藻の餌利用状況
藤林 恵 (秋田県立大学, 日本)
- O3-10 富栄養湖太湖における藍藻類由来炭素の高い栄養段階への移行
Xian Cao (東北大学, 中国)
- 15:40-17:00 第4 セクション 「植物プランクトンの動態とアオコ 1」
座長: 石川 可奈子 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- O3-11 猪苗代湖の中性化が一次生産を担う生物の分布に及ぼす影響
中村 和徳 (福島県環境創造センター, 日本)
- O3-12 霞ヶ浦土浦入を対象に構築したアオコ予測システムの紹介
長濱 祐美 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- O3-13 異なる栄養状態を有する2つの熱帯系の植物プランクトン群集における温暖化と富栄養化効果 - 実験的アプローチ
Sandra Maria Feliciano Oliveira Azevedo (Instituto de Biofísica Carlos Chagas Filho, Federal University of Rio de Janeiro, ブラジル)
- O3-14 いさはや新池および諫早湾底泥における Microcystin-LR 分解能の評価解析
類家 翔 ((公財) 国際科学振興財団, 日本)



10月18日(中ホール300)

9:00-10:20 第5セッション 「植物プランクトンの動態とアオコ2」

座長：富岡 典子 ((国研) 国立環境研究所地域環境研究センター)

- O3-15 ベトナムの熱帯富栄養水塊であるダウ・ティエン貯水池における藍藻類バイオマスとマイクロシスチン濃度への環境要因の影響について
Luu Thanh Pham (Institute of Tropical Biology, Vietnam Academy of Science and Technology, ベトナム)
- O3-16 ウガンダの3つの国立公園の浅い湖における陸水学的特徴、富栄養化、藍藻類優占
William Okello (National Fisheries Resources Research Institute (NaFIRRI), ウガンダ)
- O3-17 水道水のかび臭の原因となる *Dolichospermum crassum* (藍藻) を分解する水草帯に生息した殺藻細菌および増殖阻害細菌の特性
清水 武俊 (神戸市水道局水質試験所, 日本)
- O3-18 「インド、ムンバイのポワイ湖の生態系健全性評価」
Pramod Bhagwan Salaskar (Dr M.S. Kodarkar Field Station, Powai Lake, Mumbai, インド)

10:40-12:00 第6セッション 「気候変動影響」

座長：清水 和哉 (筑波大学生命環境系)

- O3-19 富栄養化がメタン生成に及ぼす影響と動物性プランクトンの炭素源としての可能性
Michal Rybak (Department of Water Protection, Institute of Environmental Biology, Faculty of Biology, Adam Mickiewicz University, Poznań, ポーランド)
- O3-20 アジア最大の汽水系であるチリカ湖における CO₂ フラックスの長期変動と制御因子
Pradipta Ranjan Muduli (CHILIKA DEVELOPMENT AUTHORITY, WETLAND RESEARCH AND TRAINING CENTER, インド)
- O3-21 レジームシフト解析による霞ヶ浦での水質生態系変動要因の分析
高津 文人 ((国研) 国立環境研究所地域環境研究センター, 日本)
- O3-22 池田湖の水質変動及び全層循環の発生要件について
大庭 大輔 (鹿児島県環境保健センター, 日本)

14:00-15:20 第7セッション 「有機物の動態」

座長：今井 章雄 ((国研) 国立環境研究所)

TS3-2 有機物動態と微生物生態に着目した琵琶湖における水質の長期変化
招待講演 中野 伸一 (京大大学生態学研究センター, 日本)

- O3-23 霞ヶ浦, 手賀沼における COD 変動の類似性に関する研究
寺島 大貴 (中央大学理工学研究科, 日本)
- O3-24 琵琶湖における有機物指標の検討
早川 和秀 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, 日本)

15:40-17:00 第 8 セクション 「底泥堆積物と一次生産」

座長：早川 和秀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター総合解析部門）

O3-25 伊豆沼沿岸部における底質有機物堆積機構の解析
野村 宗弘（東北大学大学院工学研究科, 日本）

O3-26 タイ南部のソクラーラゲーンシステムの表層堆積物における栄養塩と C:N:P モル比率
Vachira Lheknim (Department of Biology, Prince of Songkla University, タイ)

O3-27 韓国・八堂湖における植物プランクトン群集と水質特性
Jongkwon Im (Han River Environment Research Center, National Institute of Environmental Research, 韓国)

O3-28 インドのシリカ湖における一次生産力の変動
Alayatarak Behera (CHILIKA DEVELOPMENT AUTHORITY, インド)

10月18日 (小会議室 404)

9:00-10:20 第 9 セクション 「化学物質の挙動と対策」

座長：苅部 甚一（近畿大学工学部化学生命工学科）

O3-29 ヨシ根圏におけるビスフェノール類の分解に関する検討
中井 美希（大阪大学大学院, 大阪府, 日本）

O3-30 高速液体クロマトグラフ四重極飛行時間型質量分析計を用いた湖水中のキレート剤の定量
Sohag Miah (金沢大学大学院自然科学研究科物質化学専攻, バングラデシュ)

O3-31 南アジア、チリカの最も大きい汽水湖の堆積物におけるリン収着・脱着挙動の特徴と塩分、pH、温度がリン収着に及ぼす影響—ケーススタディ
Saroja Kumar Barik (Dept. of Chemistry, School of Applied Sciences, KIIT, Deemed to be University, インド)

O3-32 日照下における浮泥からの光化学的リン酸放出特性
Xiaolu Li (Huazhong Agricultural University, 中国)

10:40-12:00 第 10 セクション 「水質モニタリング 1」

座長：李 沁潼（東洋大学生命科学部応用生物科学科）

O3-33 東南アジアの浅い大型湖であるカンボジア・トンレサップ湖の水質に関する時空間的変動
Sok Ty (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア)

O3-34 カンボジア・トンレサップ湖につながる主要河川での生物学的水質状況
Porsry Ung (Institute of Technology of Cambodia / 東京工業大学, カンボジア)

O3-35 トンレサップ川、メコン川、バサック川における大腸菌 K12 の生残性と抗生物質耐性菌の検出について
Reasmey Tan (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア)

O3-36 カンボジア・コンボンロウンにあるトンレサップ湖の歴史的データに基づく水質の時間的な動態
Marith Mong (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア)



14:40-15:20 第 11 セクション 「水質モニタリング 2」

座長：広瀬 浩二（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

O3-37 猪苗代湖における湖水水質の長期変動
佐藤 貴之（福島県環境創造センター，日本）

O3-38 フィリピン・南ルソンから選ばれた 5 つの湖沼の水質
Khristine Laguador Sandoval（Centro Escolar University-Manila, フィリピン）

15:40-17:00 第 12 セクション 「湖沼生態系の諸問題」

座長：小松 一弘（（国研）国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室）

O3-39 東南アジアの熱帯淡水から分離された 2 種の臭気ストレプトマイセス種のゲノム解析
がもたらす潜在的感温部の特定に関する知見
Nurul Syahirah Shamsol Anuar（筑波大学，マレーシア）

O3-40 ネパールにおける低地湖沼の富栄養化マッピング
Prava Pandey（National Lake Conservation Development Committee/Ministry of
Culture, Tourism and Civil Aviation, ネパール）

O3-41 チェルノブイリ立ち入り禁止区域の湖沼：水中生物相への長期的な放射線被曝の影響
Dmitri Gudkov（Institute of Hydrobiology, ウクライナ）

O3-42 熱帯湖における繊毛原生動物の個体数：フィリピン・ラナオ湖のケーススタディ
Camar Pauti Ameril（Mindanao State University-Marawi City, フィリピン）

第 4 分科会：水辺地域の歴史と文化

歴史，文化，生活，景観，レクリエーション，観光利用等幅広く焦点をあて，湖沼がもたらす文
化的サービスについて討議します。

日 時 10月16日（火）9:00-17:00

会 場 つくば国際会議場 小会議室 404

9:00-10:20 第 1 セクション 「水辺空間の活用と保全」

座長：若月 博延（金城大学短期大学部ビジネス実務学科）

TS4-1 北海道テッシ - オ - ペツはカヌーの聖地
招待講演 草野 孝治（NPO 法人ダウン・ザ・テッシ，日本）

O4-1 湖沼を活用したサイクルツーリズムの推進
＝滋賀県における「ビワイチ」の取り組みと「霞ヶ浦、琵琶湖、浜名湖 3 湖連携」に
ついて＝
津田 誠司（滋賀県，日本）

O4-2 ベトナム中部タムジャンラグーンでのラムサール条約登録を目指した取り組み
平井 幸弘（駒澤大学文学部地理学科，日本）

10:40-12:00 第2セッション 「霞ヶ浦の歴史と市民活動」

座長：沼澤 篤（(一社)霞ヶ浦市民協会）

永井 博（茨城県立歴史館史料学芸部）

O4-3 縄文時代における霞ヶ浦の環境変遷と人間活動

亀井 翼（上高津貝塚ふるさと歴史の広場／筑波山地域ジオパーク推進協議会, 日本）

O4-4 霞ヶ浦が育む常世国と人類と自然の共生関係

千葉 隆司（かすみがうら市歴史博物館, 日本）

O4-5 水辺の交流「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」

市村 和男（(一社)霞ヶ浦市民協会, 日本）

O4-6 サイクリング天国いばらきを走ろう！

－「つくば霞ヶ浦りんりんロード」サイクリングイベント実践報告－

張替 幸一（HMB アウトドアクラブ霞ヶ浦サイクリングチーム, 日本）

14:00-15:20 第3セッション 「持続可能な観光まちづくり」

座長：田蓑 健太郎（流通経済大学大学院スポーツ健康科学部スポーツ健康科学研究科）

TS4-2 持続可能な湖沼地域と観光の関係について

招待講演

安村 克己（追手門学院大学地域創造学部地域創造学科, 日本）

O4-7 内水面利用の多様化と利用調整問題：四国吉野川上流域を事例に

原田 幸子（三重大学, 日本）

O4-8 玉川上水に関する現地調査及び通水能力の水理学的検討

新澤 まゆ子（中央大学大学院理工学研究科, 日本）

15:40-17:00 第4セッション 「アジアにおける水系と生活文化」

座長：永野 聡（立命館大学産業社会学部）

楊 平（滋賀県立琵琶湖博物館）

O4-9 ダンモンディ湖：都市生活者の文化的同化

Md Golam Rabbi (Nature Conservation Society, バングラデシュ)

O4-10 バングラデシュ・ハオール盆地の民族文化に気候変動が及ぼす影響

Tapas Ranjan Chakraborty (Jahangirnagar University, バングラデシュ)

O4-11 持続可能な生計発展のためのマングローブに囲まれたコガラ湖の管理 - スリランカにおけるケーススタディ

Indika Rohan Palihakkara (Department of Crop Science, Faculty of Agriculture, University of Ruhuna, スリランカ)

O4-12 インド西部の宗教的な水塊を保全するための持続可能なアプローチ

Nagesh Shankarrao Tekale (Navdrushti, Mumbai, インド)



第5分科会：流域活動と物質循環

湖沼及びその流域における人間活動に伴う物質循環に焦点をあて、流域と河川・湖沼全体での窒素・りん循環や化学物質等の動態等について討議します。

日時 10月16日(火) 9:00-17:00, 10月18日(木) 9:00-16:40

会場 つくば国際会議場 小会議室 202A

10月16日

9:00-10:20 第1セッション 「安定同位体」

座長：仁科 一哉 ((国研) 国立環境研究所地域環境研究センター土壌環境研究室)

TS5-1 利水系における有害なアオコとその他の生態学的問題の一因となる栄養源のマルチ同位体法による特定

招待講演

Carol Kendall (U. S. Geological Survey, 米国)

O5-1 シラン-サンタ・ローサ流域の地下水における硝酸塩発生源の特定 (流域ガバナンスへ向けて) について

Osbert Leo Alcantara Privaldos (Laguna Lake Development Authority, National Ecology Center / Institute of Chemistry, University of the Philippines, フィリピン)

O5-2 硝酸イオンの窒素及び酸素安定同位体比を用いた茨城県鉾田川流域地下水の窒素負荷源の推定

箭田 佐衣子 ((国研) 農研機構農業環境変動研究センター, 日本)

10:40-12:00 第2セッション 「窒素汚染起源」

座長：志村 もと子 ((国研) 農研機構西日本農業研究センター農地・水環境研究グループ)

O5-3 茨城県霞ヶ浦流域における大気アンモニア濃度の広域観測
堅田 元喜 (茨城大学, 日本)

O5-4 牛舎周辺アンモニア濃度と負荷量の局所空間分布に関する調査
久保田 智大 (茨城大学大学院農学研究科, 日本)

O5-5 巴川・鉾田川流域における地下水の硝酸態窒素による汚染状況及びその要因
菊地 哲郎 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)

O5-6 園芸品目における改善施肥技術適用時の窒素フットプリントの仮想窒素係数とその硝酸態窒素溶脱指標としての有効性
郷内 武 (茨城県農業総合センター園芸研究所, 日本)

14:00-15:20 第3セッション 「水質浄化対策」

座長：加藤 亮 (東京農工大学大学院農学研究院国際環境農学部門)

O5-7 カバークロップ利用による土壌および水質保全
インティン ゴン (茨城大学, 日本)

O5-8 温度係数に着目した湿地の窒素除去率推定手法の改良
林 暁嵐 (東京農工大学大学院連合農学研究科, 日本)

O5-9 河川への栄養塩類のネットの面源負荷強度を推定する簡易流域土地利用モデルの検証
吉川 省子 ((国研) 農研機構農業環境変動研究センター, 日本)

O5-10 印旛沼流域の水田を対象とした精密水管理による栄養塩負荷の削減効果
吉田 貢士 (茨城大学, 日本)

15:40-17:00 第4セッション 「土地利用・農業技術」

座長：吉田 貢士（茨城大学農学部地域総合農学科）

- O5-11 循環灌漑における水と栄養塩類の動向の解析
石川 貴大（東京大学農学生命科学研究科, 日本）
- O5-12 霞ヶ浦新利根川流域における湖沼と水田地帯の水環境保全に向けた循環灌漑の適用可能性
加藤 亮（東京農工大学, 日本）
- O5-13 大潟村における GNSS 直進アシスト田植機を活用した水稻無落水移植による八郎湖の環境改善 ① GNSS 直進アシスト田植機の無落水移植試験
長坂 善禎（(国研) 農研機構・東北農業研究センター, 日本）
- O5-14 大潟村における GNSS 直進アシスト田植機を活用した水稻無落水移植による八郎湖の環境改善 ②無落水移植による水田排出負荷削減効果
近藤 正（秋田県立大学, 日本）
-

10月18日

9:00-10:20 第5セッション 「森林保全」

座長：江口 定夫（(国研)農研機構農業環境変動研究センター物質循環研究領域水質影響評価ユニット）

TS5-2 植物の表面から湖まで：安定同位体で生態系の窒素ダイナミクスを明らかにする
招待講演 大手 信人（京都大学大学院情報学研究科, 日本）

- O5-15 琵琶湖の保全・再生の視点に立った森林整備指針の策定について
田中 理（滋賀県, 日本）
- O5-16 福島県駒止湿原開墾跡地における土壌環境条件と植生回復
坂上 伸生（茨城大学農学部, 日本）

10:40-12:00 第6セッション 「リン循環」

座長：山岡 賢（(国研) 農研機構農村工学研究部門水利工学研究領域水域環境ユニット）

- O5-17 千刈貯水池流域における水田及び森林からのリン流出負荷量
藤原 正幸（京都大学大学院農学研究科, 日本）
- O5-18 千刈貯水池流域におけるリン流出の観測とモデル化
竹内 潤一郎（京都大学大学院農学研究科, 日本）
- O5-19 諏訪湖における底質中リン濃度の経年変化
市川 雄貴（信州大学, 日本）
- O5-20 土壌の粒子状リンの化学形態および藍藻による利用
安達 遥（東京農工大学, 日本）

14:00-15:20 第7セッション 「バイオマス」

座長：久保田 富次郎（(国研)農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域水文水資源ユニット）

- O5-21 亜臨界水反応装置による複合的なバイオマス系廃棄物の資源化システムモデルの創成
松下 潤（中央大学研究開発機構, 日本）
- O5-22 バイオマスの循環利用による水質保全
柚山 義人（(国研) 農研機構, 日本）



O5-23 水草バイオマスを汚泥脱水助剤として活用するための基礎的研究
山崎 廉予 ((国研) 土木研究所, 日本)

O5-24 水田に施用した低温メタン発酵消化液の窒素無機化特性
中村 真人 ((国研) 農研機構, 日本)

15:40-16:40 第8セッション 「化学物質」

座長：黒田 久雄 (茨城大学農学部地域総合農学科)

O5-25 小規模流域における残留性有機汚染物質のリスク評価
Maoheng Zhang (Nanjing Normal University, 中国)

O5-26 霞ヶ浦流域のダイズ畑で放射性セシウムの長期モニタリング
李 沛然 (茨城大学大学院農学研究科, 日本)

O5-27 霞ヶ浦周辺環境における薬剤耐性菌の分布
矢用 もも (茨城大学, 日本)

第6分科会：科学的知見に基づくモニタリング

湖沼や河川の水質、生態系等のモニタリング技術に焦点をあて、新しい知見に基づくモニタリング手法やそれを支える先進的技術及び解析手法について討議します。

日時 10月16日(火) 9:00-17:00, 10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 303

10月16日

9:00-10:20 第1セッション 「環境モニタリング」

座長：中村 圭吾 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ)

O6-1 最新の世界湖沼データベースを用いた全球湖沼流域の水文気候情報を調査するためのウェブアプリケーション：CGLB
仲江川 敏之 (気象研究所, 日本)

O6-2 インド・カシミール・ヒマラヤのダル湖における水化学の時空間特性化と汚染源特定のための環境測定技術
Shakil Romshoo (University of Kashmir, インド)

O6-3 タイにおける河川健全性評価のための底生大型無脊椎動物のマルチメトリック指標の利用
Chotiwt Techakijvej (Environmental Science Program, Faculty of Science, Chiang Mai University, Chiang Mai, タイ)

O6-4 熱帯環境の環境モニタリングおよび生態毒性：メコン川流域国における基準と適用
Chuleemas Boonthai Iwai (Khon Kaen University, タイ)

10:40-12:00 第2セッション 「長期モニタリングデータの解析」

座長：田中 宏明 (京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター)

TS6-1 摩周湖 - 鋭敏でありかつ安定である湖における環境記録の読み取り
招待講演 田中 敦 ((国研) 国立環境研究所環境計測研究センター基盤計測化学研究室, 日本)

O6-5 汽水湖沼における水質の周期変動について
松本 俊一 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)

O6-6 霞ヶ浦における貧酸素塊と乱流混合過程
増永 英治 (茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター, 日本)

14:00-15:20 第3セッション 「測定方法」

座長：田尾 博明 ((国研) 産業技術総合研究所四国センター)

O6-7 無試薬光反応を利用した水質分析法のメンテナンス低減化・高感度化
中里 哲也 ((国研) 産業技術総合研究所, 日本)

O6-8 水中マイクロシスチン -LR の検出ツールとしてのグラフェンを用いた電気化学的センサ
古米 弘明 (東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター, 日本)

O6-9 危機管理型水位計による河川水位モニタリング技術
筒井 和雄 ((株) 日立製作所制御プラットフォーム統括本部社会制御システム設計部, 日本)

O6-10 霞ヶ浦における MERIS による透明度板深さ推定
Dalin Jiang (筑波大学大学院生命環境科学研究科, 中国)

15:40-17:00 第4セッション 「リモートセンシングによる湖沼のモニタリング」

座長：松下 文経 (筑波大学生命環境系)

O6-11 気候変動観測衛星「しきさい」による湖沼観測
村上 浩 ((国研) 宇宙航空研究開発機構, 日本)

O6-12 湿地帯状態評価のための現場ハイパースペクトル遠隔測定——インド人工湿地帯のケーススタディ
Jk Garg (University School of Environment Management, GGS Indraprastha University, インド)

O6-13 湖沼データの整備、提供及び活用
沼田 佳典 (国土交通省国土地理院, 日本)

O6-14 インドネシアにおける湖沼表面積変化の Global Surface Water データによる長期監視
Rossi Hamzah (筑波大学大学院生命環境科学研究科 / Indonesian National Institute of Aeronautics and Space, Jakarta, インドネシア)

10月18日

9:00-10:20 第5セッション 「人為的影響のモニタリング」

座長：中村 圭吾 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ)

O6-15 帰還困難区域に生息する溪流魚の放射性セシウムのモニタリングと標識放流実験による溪流魚の ^{137}Cs 蓄積速度の推定
樽井 美香 (茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター, 日本)

O6-16 貯水池の水質に関する人為的影響の評価：台湾南部における貯水池集水域のケーススタディ
Wan-Ru Chen (Department of Environmental Engineering, National Cheng Kung University, Tainan, 台湾)

O6-17 琵琶湖南湖で検出される大腸菌の起源推定
井原 賢 (京都大学, 日本)

O6-18 溶存 CH_4 ・ N_2O 測定による湖沼等の貧酸素環境の時間的広がりをもった推定
木持 謙 (埼玉県環境科学国際センター, 日本)



10:40-12:00 第6セッション 「新規物質のモニタリング」

座長：田尾 博明（(国研) 産業技術総合研究所四国センター）

O6-19 淀川水系における動物用医薬品の排出源推定

花本 征也（京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター，日本）

O6-20 ダム貯水池からの土砂供給が下流河川水中の金属濃度に及ぼす影響

鈴木 裕識（(国研) 土木研究所，日本）

TS6-2

招待講演

データ、モデル、ネットワークの統合は、湖沼科学と予測を進歩させる機会を生む

David Hamilton (Australian Rivers Institute, Griffith University, オーストラリア)

14:00-15:20 第7セッション 「データ解析とモデリング」

座長：圓佛 伊智朗（(株) 日立製作所研究開発グループ日立研究所制御イノベーションセンタ）

O6-21 陸域－水域の連続性を考慮した統合型水文生態系－生物地球化学結合モデルの最近の進展

中山 忠暢（(国研) 国立環境研究所，日本）

O6-22 千葉県高崎川流域における SIPHER モデルでシミュレートした河川水温度の変化に対する気候変動の影響

Rajendra Khanal（東京工業大学環境・社会理工学院土木・環境系／東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター，ネパール）

O6-23 ロクタク湖流域における Soil and Water Assessment Tool (SWAT) を用いた河川流の評価

Ritesh Sikka（Water Management, Wetlands International South Asia, インド）

O6-24 ランドサット TM と ETM+ を用いたインドネシア湖沼における透明度推定モデルの開発

Fajar Setiawan（筑波大学大学院生命環境科学研究科／Research Centre for Limnology, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), Bogor, West Java, インドネシア）

15:40-17:00 第8セッション 「プランクトンと溶存有機物の動態」

座長：中野 伸一（京都大学生態学研究センター）

O6-25 PEG モデルを視点とした琵琶湖水質と植物プランクトン遷移の関係解析について

池田 将平（滋賀県，日本）

O6-26 琵琶湖におけるウイルス・ホットスポット

沈 尚（京都大学大学院工学研究科，日本）

O6-27 流域間の分水の有無による、上流の流入河川と水道用ダムからの放流水源における天然有機物の特性の比較

Chih-Hua Chang（Department of Environmental Engineering, National Cheng Kung University, 台湾）

O6-28 琵琶湖・淀川流域における難分解性有機物に関する調査研究のための流域連携

和田 桂子（(公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所，日本）

第7分科会：生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術

生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するため、排水規制、生活排水対策、農地・畜産対策、流出水対策、浄水技術や排水処理技術、湖内浄化、適正技術、経済的インセンティブ施策等、ハード技術だけでなくソフト対策についても討議します。

日時 10月16日(火) 9:00-17:00, 10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 406

10月16日

9:00-10:20 第1セッション 「湖沼モニタリングと水質改善」

座長：古米 弘明 (東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター)

TS7-1 リーヴェン湖の再生：生態系サービスの維持

招待講演

Brian D'arcy (Independent environmental consultant, & Partner C&D Associates LLP Co-founder consulting gateway, 英国)

O7-1 水道取水源として見た霞ヶ浦の水質について
浅見 真紀 (茨城県企業局, 日本)

O7-2 凝集磁気分離型水処理装置を採用した霞ヶ浦直接浄化実証施設
渡邊 英幸 ((株)日立製作所, 日本)

10:40-12:00 第2セッション 「生態系サービス」

座長：田中 仁志 (埼玉県環境科学国際センター水環境担当)

O7-3 バリュチェーン分析 - ナセル湖の漁業実績評価
Ahmed Mohamed Nasr-Allah (WorldFish, エジプト)

O7-4 水草の持続的利活用を通じた湖沼生態系の保全
伴 修平 (滋賀県立大学, 日本)

O7-5 クラ川-アラス川流域における貯水池/HPPの生態系サービスの評価
Rovshan K Abbasov (Environmental Research Centre, Khazar University, アゼルバイジャン)

O7-6 首都ハノイのウエスト湖の生態系サービスに及ぼす気候変動の影響評価と軽減および適応手段のシステムの提案
Mai Huong Doan (Department of Ecology, Faculty of Biology, VNU Hanoi University of Science, ベトナム)

14:00-15:20 第3セッション 「生態毒性」

座長：渡部 春奈 ((国研) 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター)

O7-7 下水処理水に特化したWET試験に用いられる魚類(ゼブラフィッシュとメダカ)の検討
村田 里美 ((国研) 土木研究所, 日本)

O7-8 底質と水質が汽水性二枚貝ヤマトシジミ (*Corbicula japonica*) の抗酸化応答に及ぼす影響
Preeti Pokhrel (茨城大学大学院理工学研究科社会インフラシステム科学専攻, ネパール)



O7-9 汽水域における自然的・人為的水質要因がヤマトシジミの成長力に及ぼす影響
増子 沙也香 (茨城大学/いであ (株), 日本)

O7-10 製鋼スラグを用いた藍藻類沈降処理法の検討
夏秋 勇太郎 (鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科, 日本)

15:40-17:00 第4セッション 「浄水処理」

座長：小松 一弘 ((国研) 国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室)

O7-11 霞ヶ浦を水源とする新たな浄水処理システムの実証実験 (I)
ー促進酸化処理の処理性及び運転条件の検討ー
高谷 駿介 (茨城県企業局, 日本)

O7-12 霞ヶ浦を水源とする新たな浄水処理システムの実証実験 (II)
ー帯磁性イオン交換樹脂の処理特性ー
柴 雅彦 (茨城県企業局, 日本)

O7-13 UF膜ろ過装置におけるオンライン差圧予測システムの開発
羽川 和希 (東レ (株) 水処理技術部, 日本)

O7-14 2015年から2017年にかけてのプットン第一浄水場におけるプロセス・組織・運用開発
Aaron Cornista (Maynilad Water Services, Inc., フィリピン)

10月18日

9:00-10:20 第5セッション 「水質保全対策」

座長：春日 郁朗 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市環境工学講座水環境制御研究室)

TS7-2 日本における湖沼の水質保全対策と今後の課題
招待講演 岡田 光正 (放送大学, 日本)

O7-15 インド・ヒマラヤ地域のナイニタール湖集水域からの雨水流出水の特性解析と処理
Sumant Kumar (NATIONAL INSTITUTE OF HYDROLOGY, ROORKEE, インド)

O7-16 土壌藻を表土栄養素の吸収体に用いた流亡抑制に関する野外実験
相澤 克則 (宮地重遠クリーンアース研究所, 日本)

10:40-12:00 第6セッション 「排水処理」

座長：藤田 昌史 (茨城大学大学院理工学部都市システム工学領域)

O7-17 水質安定化と省エネルギーを実現する硝化制御技術の実証
西田 佳記 ((株) 日立製作所, 日本)

O7-18 下水処理における窒素除去を向上させるための曝気プロセスの検討
曾田 真志 (茨城県流域下水道事務所, 日本)

O7-19 下水メインストリームアナモックス向け亜硝酸型硝化技術の確立
宮前 祥子 ((株) 日立製作所, 日本)

O7-20 淡水資源管理のための都市下水からの窒素および優先フタル酸エステル類の同時除去
Khalid Muzamil Gani (Indian Institute of Technology Roorkee, インド)

14:00-15:20 第7セッション 「排水処理／水草」

座長：西廣 淳（東邦大学理学部生命圏環境科学科）

- 07-21 タイ、米国、日本における湖へ排水する前の本格的な污水处理施設からの廃水の特徴の比較
Pongsak Lek Noophan (Department of Environmental Engineering, Faculty of Engineering, Kasetsart University, Bangkok, タイ)
- 07-22 日本製浄化槽の EU 地域適用化に向けた設計手法の開発
古市 昌浩((一社)浄化槽システム協会／(株)ハウステック／東北大学大学院, 日本)
- 07-23 印旛沼流域におけるナガエツルノゲイトウ問題～治水リスクの軽減にむけた外来種管理の持続可能な取り組み～
長谷川 雅美 (東邦大学理学部, 日本)
- 07-24 印旛沼に自生するヒシの機能性とその活用について
池岡 正樹 (リファインホールディングス (株) 未来創造研究室, 日本)

15:40-17:00 第8セッション 「衛生環境」

座長：島崎 大 (国立保健医療科学院生活環境研究部)

- 07-25 トンレサップ湖上および周辺に住んでいる人々の衛生状態と公衆衛生：水地帯、水陸地帯、および陸上地帯の比較
Sokneang In (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア)
- 07-26 ケニアにおける生態学的衛生アプローチによるビクトリア湖保護への挑戦
Joan Maureen Opuba ((公社) 日本国際民間協力会／Freelance consultant, Water/Environment Management, ケニア)
- 07-27 アフリカにおける人々とマラウイ湖の調和のとれた共生を目指した生態学的衛生アプローチの成果
Aubrey Rozario Chimwaza ((公社) 日本国際民間協力会／Cowater Sogema, Inc, マラウイ)
- 07-28 傾斜土槽法を用いた低エネルギー消費型の上下水処理
生地 正人 ((株) 四電技術コンサルタント, 日本)

第8分科会：市民活動と環境学習

湖沼流域で実践されている市民活動や環境学習に焦点をあて、地域に根ざしてよりよい水環境を未来に残していくための活動とそのあり方について討議します。

日時 10月16日(火) 9:00-17:00, 10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201B

10月16日

9:00-10:20 第1セッション 「市民参加と協働1」

座長：井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

川嶋 宗継 (滋賀大学)

- 08-1 茨城県土浦市宍塚の里山における、市民による広範な保全活動
及川 ひろみ (認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会, 日本)



- O8-2 印旛沼源流域の里山における環境教育
鈴木 久夫 (NPO 法人富里のホタル, 日本)
- O8-3 次世代に残そう「ふるさとの水辺」
金崎 いよ子 (認定 NPO 法人びわこ豊稷の郷, 日本)
- O8-4 地域全体で日本三景の天橋立・阿蘇海とその流域を護り未来に繋げるための取組
安東 直紀 (京都府宮津市役所, 日本)

10:40-12:00 第2セッション 「市民参加と協働2」

座長：川嶋 宗継 (滋賀大学)

井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

TS8-1

招待講演

タイ北部地域の総合水資源管理への住民参加

Chitchol Phalaraksh (Department of Biology, Faculty of Science, Chiang Mai University, タイ)

- O8-5 湖の豊かさ (ヤーマヌンラーフ) のための M.A.T.H. (湖の豊かさの持続可能な開発戦略) – フィリピン・ラグナ湖カランバ市の事例 –
Cynthia Caburnay Buen (City Agricultural Services Department, City Government of Calamba, フィリピン)
- O8-6 私のラオナ湖プロジェクトー平和なミンダナオのためにラオナをクリーンにー
Maria Cecilia Ferolin (Mindanao State University-Iligan Institute of Technology, フィリピン)

14:00-15:20 第3セッション 「市民参加と協働3」

座長：原田 泰 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー)

小川 かほる (小川かほる環境教育事務所)

- O8-7 ジャカルタの貯水池管理における地域社会の役割変化
Gutomo Bayu Aji (Research Centre for Population, Indonesian Institute for Sciences, インドネシア)
- O8-8 タイのパヤオ湖に関する研究の方向性を決定するための利害関係者の参加
Santiwat Pithakpol (University of Phayao, タイ)
- O8-9 ジャカルタ大都市圏内の都市湖沼のために制定された「ティルタ・ブダヤ・シトゥ」水文化プログラムの実施および評価
Ami A. Meutia (京都大学 / UP 45 University, インドネシア)
- O8-10 アラル海の悲劇およびその現在の生態系についての環境意識を高めるための方法
Khairulla Zhanbekov (University of KazNPU after named Abay, カザフスタン)

15:40-17:00 第4セッション 「市民参加と協働4」

座長：小川 かほる (小川かほる環境教育事務所)

原田 泰 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー)

- O8-11 インド、ムンバイのポワイ湖を保全するためのマハラシュトラ州釣り協会 (MSAA) の取り組み
Farid Hamid Sama (MAHARASHTRA STATE ANGLING ASSOCIATION, インド)
- O8-12 霞ヶ浦における放射能汚染への私たちの対応
浜田 篤信 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー, 日本)

O8-13 地域の中企業連携で進める小規模都市河川での生物多様性保全の取組
宮城 成和 (湖南企業いきもの応援団, 日本)

O8-14 びわ湖の環境問題の歩みと次世代へのメッセージ
堀野 善司 ((株) ヒロセ, 日本)

10月18日

9:00-10:20 第5セッション 「生態系保全」

座長：及川 ひろみ (認定NPO 法人穴塚の自然と歴史の会)

井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

O8-15 田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業の取組について
吉田 直人 (国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所, 日本)

O8-16 滋賀県野洲市“須原せせらぎの郷”による「魚のゆりかご水田」の取り組み
赤松 喜和 (須原せせらぎの郷, 日本)

O8-17 緊急に求められる外来水生植物対策と市民にできること
半沢 裕子 (美しい手賀沼を愛する市民の連合会, 日本)

O8-18 大学生による多様な主体との協働による琵琶湖の侵略的外来水生植物の除去の取り組み
田中 佑芽 (NPO 法人国際ボランティア協会 IVUSA, 日本)

10:40-12:00 第6セッション 「教育プログラムと実践1」

座長：小川 かほる (小川かほる環境教育事務所)

井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

TS8-2 ESD & SDGs, 環境教育を超えて

招待講演 見上 一幸 (前宮城教育大学長, 日本)

O8-19 Education for Sustainable Development (ESD) の視点を取り入れた、
生涯にわたって段階的・継続的に取り組む体系的な環境学習について
赤崎 好近 (滋賀県, 日本)

O8-20 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの教育プログラムについて
桑原 祐史 (茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター, 日本)

14:00-15:20 第7セッション 「教育プログラムと実践2」

座長：川嶋 宗継 (滋賀大学)

原田 泰 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー)

O8-21 アジア湿地シンポジウムにおけるユースセッションの開催とその成果
佐藤 琢磨 (ユースラムサールジャパン, 日本)

O8-22 バーチャルリアリティ (VR) 技術による湖沼環境教育
早岡 英介 (北海道大学, 日本)

O8-23 「印旛沼学習」－印旛沼のふるさと 船穂の里山－
小倉 久子 (印旛沼流域水循環健全化会議, 日本)

O8-24 霞ヶ浦市民協会の受託事業
吉田 薫 ((一社) 霞ヶ浦市民協会, 日本)



15:40-17:00 第8セッション 「教育プログラムと実践3」

座長：原田 泰 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー)

川嶋 宗継 (滋賀大学)

O8-25 桜川探検隊連絡会議の活動

大久保 和男 ((一社) 霞ヶ浦市民協会, 日本)

O8-26 地方環境研究所が行う河川環境学習が児童の自然環境に対する意識・理解に与える影響

三輪 俊一 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)

O8-27 地域対話が河川流域住民の水環境に対する意識に与える影響

鈴木 聡 (福島県環境創造センター, 日本)

O8-28 NHK テレビ番組で放映された霞ヶ浦の環境問題

川村 志満子 (筑波大学, 日本)

第9分科会：統合的湖沼流域管理 (ILBM)

湖沼流域の生態系サービスを維持・保全・向上させるために、流域の全ての関係者が連携的に取り組む「統合的湖沼流域管理 (ILBM)」のあり方と、それを支える流域ガバナンスの段階的、継続的かつ長期にわたる向上のための取組みについて討議します。

日時 10月16日(火) 9:20-17:00, 10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 304

10月16日

9:20-10:20 第1セッション 「湖沼河川湾岸流域ガバナンス」

座長：中村 正久 ((公財) 国際湖沼環境委員会)

TS9-1 琵琶湖・淀川流域圏における統合的流域管理の実現に向けたガバナンスのあり方
招待講演 中塚 則男 ((公財) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会, 日本)

10:40-12:00 第2セッション 「ILBM と湖沼流域ガバナンス 1」

座長：瀧 健太郎 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

TS9-2 マレーシアの水セクター転換に不可欠な部分としての統合的湖沼流域管理 (ILBM)
招待講演 Salmah Zakaria (ACADEMY OF SCIENCES MALAYSIA (ASM), マレーシア)

O9-1 フィリピンのラグナ湖のサンタ・ローサ流域におけるガバナンス・ギャップと展望
Ria Adoracion Lambino (Research Institute for Humanity and Nature, フィリピン)

O9-2 マレーシアの統合的湖沼流域管理 - 10年間の進展
Zati Sharip (National Hydraulic Research Institute of Malaysia, マレーシア)

14:00-15:20 第3セッション 「ILBM と湖沼流域ガバナンス 2」

座長：平山 奈央子 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

O9-3 ブータンにおける湿地の保全：政策と実践
Sonam Choden (Ramsar Focal Point, Royal Government of Bhutan, ブータン)

O9-4 メキシコ、チャパラ湖流域の統合管理向上のためのパートナーシップの構築
Alejandro Juárez Aguilar (Institute Corazon de la Tierra, メキシコ)

- O9-5 平和とガバナンス：フィリピン南部ラナオ湖の持続可能な開発へ向けた課題
Sukarno Tanggol (Mindanao State University-Iligan Institute of Technology, フィリピン)
- O9-6 メキシコ河川湖沼流域ネットワーク、メキシコの湖の統合管理に関する取り組みの提案
Eduardo Rios Patron (Red Mexicana de Cuencas, メキシコ)
- 15:40-17:00 第4セクション 「ILBMの組織体制とその分類1」
座長：和田 桂子 ((公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所)
- O9-7 近年の環境変化がトンレサップ湖 (TSL) の漁業コミュニティの生計手段に及ぼす影響
Pham Ngoc-Bao (Institute for Global Environmental Strategies (IGES), 日本)
- O9-8 統合的湖沼流域管理における地方自治体の役割：マレーシアの経験
Minhaz Farid Ahmed (Institute for Environment and Development (LESTARI), Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM), バングラデシュ)
- O9-9 河川 / 湖沼チーフ：水環境改善のために中国が提案する新しいコンセプト
Haijun Wang (State Key Laboratory of Freshwater Ecology and Biotechnology, Institute of Hydrobiology, the Chinese Academy of Sciences, 中国)
- O9-10 2030 SDG 6 に向けたプラットフォームとしての、アルバニアにおける水資源管理 2018-2030 のための全国セクター・プログラム (NSP)
Arduen Karagjozi (Technical Secretariat of National Water Council, アルバニア)

10月18日

- 9:00-10:20 第5セクション 「生態系サービス分析1」
座長：和田 桂子 ((公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所)
- O9-11 琵琶湖流域の環境評価に影響を与える要因
平山 奈央子 (滋賀県立大学, 日本)
- O9-12 湿地生態系サービスに対する認知、姿勢、嗜好性：オディシャ州タンパラ湖の事例研究
Ritesh Kumar (Wetlands International South Asia, インド)
- O9-13 バエ湖とその支流に関する生態系ヘルス・カード
Jocelyn Gazmen Sta. Ana (Environmental Laboratory and Research Division, Laguna Lake Development Authority, フィリピン)
- O9-14 西アフリカの統合的湖沼流域管理 (ILBM) フレームワークにおいて ESSVA (生態系サービス共有価値アセスメント) に重点をおいた ILBM 国際ワークショップから得られた主な成果、結果、課題。
Salif Elhadji Diop (Academy of Sciences of Senegal, セネガル)

10:40-12:00 第6セクション 「生態系サービス分析2」

座長：Victor Shiholo Muhandiki ((公財) 国際湖沼環境委員会)

- O9-15 都市の湖沼と湿地に関する生態系サービス評価 - プトラジャヤの事例
Normaliza Noordin (Perbadanan Putrajaya, マレーシア)



- O9-16 チリカ湖集水域における土地利用・土地被覆 (LULC) の状況改善を促進した「強化された水文学的接続性」(インド・回復カプロジェクトパートナーのケーススタディ) について
Sasawata Kumar Mohapatra (SPANDAN (NETCOAST), インド)
- O9-17 インドのアンSPA湖における参加型流域管理と生物多様性保全
Durga Prasad Dash (PALLISHREE, インド)
- O9-18 気候変動影響下のムーデ湖流域の脆弱性および生態系サービス評価
Zati Sharip (National Hydraulic Research Institute of Malaysia, マレーシア)

14:00-15:20 第7セッション 「気候変動の影響」

座長：平山 奈央子 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

- O9-19 水害に対する政府の対応と河川観測に於けるリモートセンシングの利活用 ; アジアパシフィック地域の実態調査
菊地 隆弘 (茨城大学工学部博士後期課程社会インフラシステム科学専攻, 日本)
- O9-20 気候および環境の変動下における熱帯淡水湖の管理
Shadananan Nair Krishnapillai (Centre for Earth Research and Environment Management, インド)
- O9-21 気象条件の変動に対する近隣湖沼の水質応答特性に関する研究
中村 徹立 ((公財) リバーフロント研究所, 日本)
- O9-22 セネガル、ギエ湖における気候変動および人口増加の下での水の利用性および需要
Djiby Sambou (University Assane Seck of Ziguinchor, セネガル)

15:40-17:00 第8セッション 「ILBM の組織体制とその分類2」

座長：中村 正久 ((公財) 国際湖沼環境委員会)

- O9-23 ネパール、ポカラの谷 (ラムサール条約湿地) の湖群における湖水盆地環境
Shailendra Kumar Pokharel (Conservation Development Foundation (CODEFUND), ネパール)
- O9-24 ヴィクトリア湖流域における社会的、および環境的な課題に対する利害関係者の立ち位置
Karlijn Van Den Broek (University of Heidelberg, オランダ)
- O9-25 インド・マハラシュトラ州ブダーナ県のロナル湖の湖沼研究
Aman Vikas Ghutke (Department of Environmental Science S.B.E.S. College of Science, Aurangabad (M.S), インド)
- O9-26 財産制度の変化と湖の環境悪化：インドネシアのラワパニング湖における制度分析
Evi Irawan (Watershed Management Technology Center, インドネシア)

◆ 分科会 (ポスター)

日時

<自由閲覧>

平成 30 年 10 月 16 日 (火) 9:00-17:00

平成 30 年 10 月 18 日 (木) 9:00-15:00

<コアタイム>

【発表番号末尾奇数】平成 30 年 10 月 16 日 (火) 13:00-14:00


【発表番号末尾偶数】平成 30 年 10 月 18 日 (木) 13:00-14:00

会場

つくば国際会議場 大会議室 101, 102

第 1 分科会：生物多様性と生物資源

- P1-1 サグリンダムのプランクトン群集の構成
Alya Fatina Diandari (Institute Teknologi Bandung, インドネシア)
- P1-2 酢酸をめぐる微生物の競合：笹侵食湿地土壌でメタン放出抑制に関わる重要因子
青柳 智 ((国研) 産業技術総合研究所, 日本)
- P1-3 ニホンウナギ減少原因の新しい仮説
浜田 篤信 (NPO 法人霞ヶ浦アカデミー, 日本)
- P1-4 レンコン品識別法開発とポリフェノール含量の多様性
高間 梨央 (茨大農, 日本)
- P1-5 ガーナ・ブイ貯水池の水質と漁業：貯水の 5 年後
Ruby Asmah (CSIR Water Research Institute, ガーナ)
- P1-6 生物指標からみた谷津干潟における環境遷移
生方 真奈 (千葉工業大学工学部生命環境科学科, 日本)
- P1-7 北ジャカルタ・パンタイ インダ カプックのゴールドコースト・オーナメンタル湖におけるプランクトンの多様性モデル
Sigid Hariyadi (Department of Aquatic Resources Management, Faculty of Fisheries and Marine Science, Bogor Agricultural University, インドネシア)
- P1-8 カンジダ・アルピカンスおよびクロコウジカビに対するラナオ湖の表面堆積物から単離された放線菌の抗真菌活性
Naima Ramos Sirad (Faculty, フィリピン)
- P1-9 マイクロコズムを活用した外来種の生態系リスク影響評価
清水 達也 (千葉工業大学生命環境科学科, 日本)
- P1-10 ヨコエビ類を用いた久慈川流域水質環境の生物学的評価
鈴木 亘 (奥久慈生物多様性研究会, 日本)
- P1-11 タイ・チェンマイ堀における植物プランクトンの分布と水質
Metee Khonfu (Department of Biology, Chiang Mai Rajabhat University, タイ)
- P1-12 インド・ティルヴァナンタプラムの国立植物園・美術館の Museum Lake 内および周辺生物多様性評価
Anila P Ajayan (University of Kerala, インド)
- P1-13 フィリピンのカガヤン湖における魚の多様性：地位と保全の必要性
Wilma Solomon Urmeneta (Cagayan State University, College of Fisheries and Marine Science- Aparri Campus, フィリピン)

- 
- P1-14 タイ、チェンマイのマエリム地区、チョーレ地域の水田における鳥の豊富さ
Nattida Supahan (Department of Biology / Centre of Excellence of Biodiversity Research and Implementation for Community, Faculty of Science and Technology, Chiang Mai Rajabhat University, Chiang Mai, タイ)
- P1-15 青森県姉沼におけるイシガイ科二枚貝の脱落後の生態に関する研究
染谷 聖 (北里大学, 日本)
- P1-16 インド・オリッサのチリカ湖における自然指標ツールを用いた生物多様性評価
Chelladurai Thomson Jacob (Consultant (Biodiversity Policy), Centre for Biodiversity Policy and Law, National Biodiversity Authority, インド)
- P1-17 筑波大学筑波キャンパスにおける貝類相
佐伯 いく代 (筑波大学, 日本)
- P1-18 フィリピンのラナオデルスールのラナオ湖の表層堆積物からの潜在的な抗生物質生成菌類の分離、スクリーニング、確認
Beverly Bermejo Amparado (Mindanao State University, フィリピン)
- P1-19 房総半島における生物学的指標による河川環境評価
堂山 剛司 (千葉工業大学工学部生命環境科学科, 日本)
- P1-20 チェンマイ県の一部の砂防ダムにおける植物プランクトンの多様性
Anudech Junthong (Department of Biology Chiang Mai Rajabhat University, タイ)
- P1-21 洞庭湖での生物多様性の簡単な紹介
Nan Yang (ASEM Water Resources Research and Development Center, 中国)
- P1-22 冬期湛水田は水生動物群集の越冬場所となるのか？
田和 康太 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム, 日本)
- P1-23 ヴォルタ湖におけるティラピア (*Oreochromis niloticus*) 養殖のリン質量収支を用いた生態学的容量評価
Anthony Yaw Karikari (CSIR WATER RESEARCH INSTITUTE, ガーナ)
- P1-24 青森県姉沼におけるイシガイ科の生息環境評価
岩坪 遼平 (北里大学, 日本)
- P1-25 茨城県つくば市の都市地域周辺における野生動物の出現と土地被覆の関係
神宮 翔真 (筑波大学大学院生命環境科学研究科国際地縁技術開発科学専攻, 日本)
- P1-26 水生生態系サービスの認識に関する統計データ評価：北ラナオ州バロイ (フィリピン) にあるバロイ湖の調整サービスと人間の健康に対する影響への着目
Misael M. Sanguila (Mindanao State University, フィリピン)
- P1-27 琵琶湖のハスはなぜ減ったのか？過去と現在の生態比較からの検討
角田 裕志 (埼玉県環境科学国際センター, 日本)
- P1-28 諏訪湖周辺の河川と水路における水生植物群落の分布および構造と立地環境との関係
大窪 久美子 (信州大学農学部, 日本)
- P1-29 ケニアのバリンゴ湖の漁場と閉鎖型漁業区域
Jones Rama Muli (Kenya Marine and Fisheries Research Institute, Baringo Field Station, ケニア)
- P1-30 魚類による湖沼から流入水路への移出状況とその関連要因
満尾 世志人 (新潟大学研究推進機構朱鷺・自然再生学研究センター, 日本)
- P1-31 外来魚チャンネルキャットフィッシュは流れに応じて遊泳方法と浮力を調節する
吉田 誠 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室, 日本)

- P1-32 大規模氾濫原湖（中国、洞庭湖）において上流貯水池調節が底生無脊椎動物の年内分布に及ぼす影響
Can Xu (State Key Laboratory of Water Resources and Hydropower Engineering Science, Wuhan University, 中国)
- P1-33 特定外来生物オオバナミズキンバイを侵入初期段階で駆除
伊豆原 健太 (国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所調査課, 日本)
- P1-34 霞ヶ浦における特定外来生物オオバナミズキンバイ（アカバナ科）の防除とその後の生育状況
伊藤 彩乃 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 日本)
- P1-35 淡水ザリガニという外来種：生態学的および経済的な影響
Ali Mashar (Bogor Agricultural University (IPB), インドネシア)
- P1-36 琵琶湖のオオバナミズキンバイの駆除方法の検討
近藤 昭宏 ((株)日吉, 日本)
- P1-37 霞ヶ浦における魚類相の変遷とその保全
山根 爽一 (茨城県県民生活環境部自然環境課生物多様性センター, 日本)
- P1-38 富栄養化した調整池におけるアメリカザリガニの生息状況
角掛 諒 (岩手県立大学, 日本)
- P1-39 浄水処理施設におけるカワヒバリガイによる被害と対策
豊岡 久美子 (茨城県企業局, 日本)
- P1-40 霞ヶ浦周辺の水辺に生育する特定外来生物（植物）の現状と防除
内山 治男 (茨城県県民生活環境部自然環境課生物多様性センター／茨城県水郷筑波国定公園管理員, 日本)
- P1-41 マイクロコズムを活用した微生物農薬の生態系影響評価
村上 和仁 (千葉工業大学先進工学部生命科学科, 日本)
- P1-42 ワン川における水質指標生物としての大型無脊椎動物の利用と小学生向け学習ガイドの作成
Wanlapa Konginta (Chiang Mai Rajabhat University, タイ)
- P1-43 「里浜」～人と生き物の共生
木村 英博 ((一社)霞ヶ浦市民協会, 日本)
- P1-44 コウノトリと共に生きる ～豊岡の挑戦～
大逸 優人 (豊岡市コウノトリ共生課, 日本)
- P1-45 保護地域管理における“衡平性 (Equity)”概念の整理と今後の論点
小林 邦彦 (総合地球環境学研究所, 日本)
- P1-46 西アフリカ・ベナンのアエメ湖の重金属元素（ニッケル、亜鉛、銅）汚染の評価
Ishola Nurudeen Adenle (Laboratoire de recherche sur des écosystèmes environnementaux, Facultés des sciences et Techniques (FAST) de Université d'Abomey Calavi Bénin, ベナン)

第2分科会：淡水資源の持続的利用

- P2-1 気候変動による我が国の湖沼における水質・生態系の影響評価と適応策の検討に向けた将来水質予測の課題について
山田 匡 (環境省水・大気環境局水環境課, 日本)
- P2-2 河口域における人為起源有機物ビスフェノール A の塩濃度に伴う動態
山根 美幸 (創価大学工学研究科環境共生工学専攻, 日本)

- P2-3 水月湖の淡水湖から汽水湖への歴史的な変化：ステロール指標からみた貧酸素環境
中国 正寿（創価大学, 日本）
- P2-4 釧路湿原自然再生事業における土砂流入対策のモニタリング調査
山本 太郎（(一財)北海道河川財団, 日本）
- P2-5 地下水汚染実態把握調査結果及び地下水汚染の未然防止の対策について
久喜 真吾（環境省水・大気環境局土壌環境課地下水・地盤環境室, 日本）
- P2-6 長江の浅い亜熱帯湖のレジームシフト
Haijun Wang（The State Key Laboratory of Freshwater Ecology and Biotechnology,
Institute of Hydrobiology, Chinese Academy of Sciences, 中国）
- P2-7 インド・ウッジャイン淡水湖の水質と生態系の健全性に関する社会監査と環境政策への国民参加
Anil Sampatrao Patil（Maharashtra Vikas Kendra, Pune, インド）

第3分科会：湖沼の水質と生態系機能

- P3-1 スリランカ・ディヤワンナ湖の水質評価
Ranjana Udaya Kumara Piyadasa（Department of Environmental Technology,
スリランカ）
- P3-2 フィリピンのラナオ湖におけるマランタオ湖岸地帯および沖帯での繊毛原生動物の個体数と分布
Fema Mag-Aso Abamo（Biology Department, Mindanao State University /
MSRTC, MSU, Marawi City, フィリピン）
- P3-3 有鐘繊毛虫の個体群動態を制御する物理・生物的要因の相対的重要性：仙台湾における高頻度調査
風間 健宏（(国研)国立環境研究所, 日本）
- P3-4 炭素・窒素安定同位体比及び脂肪酸分析によるイシガイの藍藻同化の検証
菅原 巧太郎（秋田県立大学, 日本）
- P3-5 八郎湖におけるアオコ形成藻類を含む細菌叢と環境因子の関係
岡野 邦宏（秋田県立大学, 日本）
- P3-6 有毒シアノバクテリアを捕食する後生動物に対する単一個体 DNA 塩基配列決定法の開発
Thakong Watcharapong (Graduate school of Engineering, Nagasaki University, タイ)
- P3-7 香溪河におけるケイ素動態に関連する珪藻の制御
Wujuan Mi（Institute of Hydrobiology, Chinese Academy of Sciences, 中国）
- P3-8 浅水富栄養化水域における溶存酸素等鉛直分布の季節変動
辻 盛生（岩手県立大学総合政策学部, 日本）
- P3-9 フィリピン共和国、ミンダナオ島、ラナオ湖における沖帯生態学についてのレビュー
Ephrime Bicoy Metillo（Department of Biological Sciences, Mindanao State
University-Iligan Institute of Technology, Iligan City, フィリピン）
- P3-10 霞ヶ浦湖水の白濁化と魚類生産について
岩崎 順（技術士：水産部門, 日本）
- P3-11 北ジャカルタの高級住宅エリア PIK（パンタイ インダ カプック）のエボニー湖の栄養塩と動物プランクトンに対する植物プランクトンの感度レベル
Niken Tunjung Murti Pratiwi（Department of Aquatic Resources Management,
Faculty of Fisheries and Marine Science, Bogor Agricultural University,
インドネシア）

- P3-12 北ジャカルタのパンタイ・インダ・カブックにあるガーデンハウス観賞用湖の栄養状態と生態学的状況
Inna Puspa (Department of Aquatic Resources Management, Faculty of Fisheries and Marine Science, Bogor Agricultural University, インドネシア)
- P3-13 小川原湖における塩分躍層と循環水深の現状と近年の変化
原田 航汰 (北里大学, 日本)
- P3-14 浮葉植物群落を有するため池における TN / TP 比と主成分得点との関係
近藤 雅秋 (三重大学大学院生物資源学研究科, 日本)
- P3-15 湖岸と河川流域における脱窒のための潜在的な植生
Susni Abdiyani (Watershed Management Technology Center, インドネシア)
- P3-16 ベナン共和国ノクエ湖 (西アフリカ) における伝統的な漁業慣行が水生生態系にもたらす不都合な問題
Bernadin Elegbede Manou (National Water Institute- University of Abomey Calavi, ベナン)
- P3-17 湖水直接浄化施設の稼働による土浦港水質浄化効果について
志村 隆二 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- P3-18 浜名湖における栄養塩類・有機物の長期変動 (1995 ~ 2017 年)
久保 篤史 (静岡大学, 日本)
- P3-19 古代からの給水システムを保護・維持する持続可能なアプローチ: インド・アウランガーバード (MS) のサリム・アリ湖
Kshamadevi Shankarrao Khobragade (DEPT OF ENVIRONMENTAL SCIENCE, S B E S COLLEGE OF SCIENCE, インド)
- P3-20 牛久沼における水質等調査結果について
富永 佳子 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- P3-21 魚類状態指標による都市湖沼の水質評価 (ロシア、カザン地域の例)
Nail Gosmanovich Nazarov (Kazan Federal University, ロシア)
- P3-22 針葉樹林と湖沼: マツの花粉が水質に及ぼす影響
Piotr Klimaszuk (Department of Water Protection, A. Mickiewicz University, ポーランド)
- P3-23 窒素沈着が太湖に及ぼす影響 (寄与度)
Xi Chen (School of Geography Science, Nanjing Normal University, 中国)
- P3-24 湖岸コミュニティによるカルデラ湖の持続可能な利用: ガーナのアシャンティ地域のボスムトゥイ湖の水質
Mark Osa Akrong (Council for Scientific and Industrial Research - Water Research Institute (CSIR-WRI), ガーナ)
- P3-25 汽水湖中海における無機態窒素の挙動に関する研究
加藤 季晋 (島根県保健環境科学研究所, 日本)
- P3-26 インドネシアの南スラウェシ州におけるテンペ湖の栄養動態および栄養状態
Yustiawati Yustiawati (Research Center for Limnology, Indonesian Institute of Sciences, インドネシア)
- P3-27 異なる有機リン源によるペリディニウム・ウンボナトゥム変種名イナエクアレおよびセネデスムス・ビジュガの増殖に関する研究
Yuping Su (Environmental Science and Engineering College, Fujian Normal University / Fujian Key Laboratory of Pollution Control and Resource Recycling, 中国)



- P3-28 諏訪湖における藻類群集に及ぼす栄養塩組成の影響
横内 雅大 (信州大学大学院, 日本)
- P3-29 フィリピン・ミンダナオ島のラナオ湖の水質評価および栄養状態測定
Carmelita Garcia Hansel (Mindanao State University, Marawi City, Lanao del Sur, フィリピン)
- P3-30 ヴィクトリア湖キスム湾における水質変化と汚染の影響
Rolín Nzomo Mwiva (Environment, Lake Basin Development Authority, ケニア)
- P3-31 C3 および C4 植物を構成する有機物の河川への流入と変化
瀬川 秀平 (創価大学大学院工学研究科環境共生工学専攻, 日本)
- P3-32 ベトナムの首都ハノイで半世紀に及ぶ西湖 (タイ湖) 管理から得た教訓
Ly Thi Ha Bui (Central Institute for Natural Resources and Environmental Studies (CRES), Vietnam National University, Hanoi, ベトナム)
- P3-33 気候変動が琵琶湖の水温・DO に及ぼす影響とそのメカニズム
多鍋 耀介 (大阪大学大学院, 日本)
- P3-34 バイカル湖堆積物に記録された植生変動の解析
竹原 景子 (創価大学工学研究科環境共生工学専攻, 日本)
- P3-35 気候変動による霞ヶ浦水質への影響について
小室 俊輔 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- P3-36 気温と湖沼水温の関係
綿貫 翔 (中央大学大学院, 日本)
- P3-37 カンボジア・トンレサップ湖における底質の重金属汚染評価
Boreborey Ty (Institute of Technology of Cambodia, カンボジア)
- P3-38 阿蘇海における貧酸素水塊発生メカニズムの評価: 底質酸素消費速度とその影響因子に着目して
森 颯人 (立命館大学大学院, 日本)
- P3-39 猪苗代湖における底層 DO の変動
大沼 沙織 (福島県環境創造センター, 日本)
- P3-40 底層溶存酸素量、沿岸透明度に対応する水質保全対策に関する検討
山田 匡 (環境省水・大気環境局水環境課, 日本)
- P3-41 堆積物間隙水中での重合体ケイ酸の形成と分解
朴 紫暎 (京都大学大学院人間環境学研究所, 日本)
- P3-42 フィリピン ミンダナオ島北東部のマイニット湖の魚大量死事件後のスクミリングガイ (Pomacea canaliculata)、水および堆積物の重金属含有量の評価
Rainer Percy Sularte (Caraga State University, Graduate School, フィリピン)
- P3-43 トンレサップ湖の湖水・堆積物試料中の微生物コンソーシア解析
宮永 一彦 (東京工業大学生命理工学院, 日本)
- P3-44 鳥取県湖山池における底質の平面分布と栄養塩溶出特性
岡本 将揮 (鳥取県衛生環境研究所, 日本)
- P3-45 日吉ダムにおける複合型曝気循環装置の嫌気化抑制効果
岩松 裕二 ((独) 水資源機構, 日本)
- P3-46 琵琶湖における底泥酸素消費量の簡易測定法の検証
霜鳥 孝一 ((国研) 国立環境研究所, 日本)
- P3-47 淡水植物プランクトンによるヒ素種のバイオトランスフォーメーション
Rimana Islam Papry (金沢大学大学院自然科学研究科物質化学専攻, バングラデシュ)

- P3-48 湖沼環境保全のためのヨード活性炭の適用可能性
 蓼沼 克嘉 (化研, 日本)
- P3-49 富栄養貯水池の1日当たり最大許容負荷総量 (TMDL) 計画の策定: 石門貯水池の事例
 Chia-Chun Ho (National Taipei University of Technology, 台湾)

第4分科会: 水辺地域の歴史と文化

- P4-1 水禽類を対象とした、流しもち網猟と張切網猟の復興
 山崎 健介 (コンサルタント (環境・観光・民俗文化), 日本)
- P4-2 牛久沼におけるテナガエビの産卵期と沼の恵みに関する考察
 根本 孝 (茨城県庁, 日本)
- P4-3 ヒマラヤ湿地での生業 ヒマラヤ山脈にある世界最高標高の湖におけるケーススタディ
 Bishnu Bahadur Bhandari (Nepal Wetlands Society, ネパール)
- P4-4 なぜ湖沼は人々の心を惹きつけるのかー湖沼と信仰に関する考察
 沼澤 篤 ((一社)霞ヶ浦市民協会, 日本)
- P4-5 水上飛行機を活用した地方創生プロジェクト
 加藤 毅三 (日本大学, 日本)

第5分科会: 流域活動と物質循環

- P5-1 低窒素施用水田土壌での脱窒細菌接種によるイネ生育促進効果: イネ栽培調査と根域土壌細菌叢解析
 迫田 翠 (茨城大学農学部, 日本)
- P5-2 長江中流域の浅い湖における堆積特性と人間活動に関する解析
 Yanhua Wang (School of Geography Science, Nanjing Normal University / Jiangsu Center for Collaborative Innovation in Geographical Information Resource Development and Application, 中国)
- P5-3 水稻栽培技術の環境影響評価 (LCA): 無代かき栽培と疎植栽培
 志村 もと子 ((国研) 農研機構西日本農業研究センター, 日本)
- P5-4 中国の湖成堆積物の陸成有機物質源評価のための N-アルカン $\delta^{13}\text{C}$
 Yanhua Wang (Nanjing Normal University, 中国)
- P5-5 基盤整備後ハス田地帯からの流出量調査について
 飯尾 恒 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本)
- P5-6 汽水湖小川原湖における近年の窒素・リン現存量の水深別分布と推移
 静 一徳 ((地独) 青森県産業技術センター内水面研究所/北里大学大学院獣医学系研究科, 日本)
- P5-7 タイ東北部における利用可能な水資源・窒素負荷量の評価
 寺家谷 勇希 (茨城大学, 日本)
- P5-8 印旛沼流域における出水時の栄養塩類濃度と藻類増殖ポテンシャルの関係
 北村 友一 ((国研) 土木研究所, 日本)
- P5-9 淡水、汽水、海水底泥の生物化学的なアンチモン除去ポテンシャル
 惣田 訓 (立命館大学, 日本)



- P5-10 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の影響を受けた土壌の無機元素組成および細菌群集構造解析
西澤 智康（茨城大学農学部, 日本）
- P5-12 駒止湿原開墾跡地におけるブナ生育に関わる共生菌類の探索と植樹試験への利用
高島 勇介（茨城大学農学部, 日本）

第 6 分科会：科学的知見に基づくモニタリング

- P6-1 フィリピン・バタンガス州タリサイにあるタール湖の水質モニタリングと評価
Felipe Buno Martinez (De La Salle University Dasmaringas, フィリピン)
- P6-2 網走川大曲堰における塩分収支の推定
田崎 冬記（(株)北開水工コンサルタント, 日本）
- P6-3 網走川大曲堰における H-ADCP による通過流量の推定
井上 和哉（(株)北開水工コンサルタント, 日本）
- P6-4 マリ共和国ニジェール内陸デルタの水位予測に対する統計手法の分析
Barry Kassambara (MIE UNIVERSITY, マリ)
- P6-5 効率的・効果的な湖沼管理に向けた河床変動メカニズムの分析・調査
池田 秀行（国土交通省東北地方整備局高瀬川河川事務所, 日本）
- P6-6 農業用排水路の魚巢・魚溜に堆積する土砂の粒度分布
高木 翔太（茨城大学農学部, 日本）
- P6-7 流体力学モデリングに基づく有害シアノバクテリアの成長可能性の評価
Myeongsub Byeon (Han-River Environment Research Center, National Institute of Environmental Research (NIER), 韓国)
- P6-8 持続可能なサービスのための湖沼の簡単で信頼性の高い生物学的モニタリング
Shobha Jagannath (Department of Studies in Botany, University of Mysore, インド)
- P6-9 河川連続体仮説に基づいて水生昆虫を使用したラーイ川および支流の生態系健全性評価
Thanayaporn Katesuja (Environmental Science Programe, Faculty of Science, Chiang Mai University, Chiang Mai, タイ)
- P6-10 リモートセンシングを用いた湿地植物に氾濫が及ぼす影響の時空間評価
Shara Grace Cosmod Astillero (北海道大学, フィリピン)
- P6-11 衛星湖沼水温データベース日本編 Version 3 の公開
溝口 裕大（茨城大学, 日本）
- P6-12 衛星降雨データ利用によるトンレサップ湖の水文・水理モデルの改善
米田 一路（山形大学農学部, 日本）
- P6-13 クロロフィル a の時空変動——MERIS データを用いたマラウイ湖における濃度
Augusto Nunes Brito Vundo (筑波大学大学院生命環境科学研究科 / Pedagogical University, モザンビーク)
- P6-14 貯水池の水質モニタリングに関する無人車両
Jr-Lin Lin (Department of Environmental Engineering, Chung Yuan Christian University, 台湾)
- P6-15 イラン国アンザリ湿原におけるドローンを活用した違法狩猟管理の試行
渡辺 仁（日本工営（株）環境技術部, 日本）
- P6-16 抗生物質とホルモンの LC-MS/MS 測定と湖水モニタリングへの適応
Maria Pythias Baradero Espino (University of the Philippines, フィリピン)

第7分科会：生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術

- P7-1 嫌気性消化液中有機汚染物質が、水環境内のポリ臭化ジフェニルエーテル溶解度に及ぼす影響
Chen Shi ((国研) 国立環境研究所/筑波大学, 中国)
- P7-2 ディスポーザー排水嫌気性処理における流入濃度の影響
胡 勇 ((国研) 国立環境研究所, 日本)
- P7-3 AOSD システムの電力削減・高度処理のベトナム大規模下水処理場における検証評価とアジア展開優位性の立証
稲森 悠平 ((公財) 国際科学振興財団, 日本)
- P7-4 機能炭を濾床として用いた人工湿地の栄養塩浄化機能
阿部 薫 ((国研) 農研機構農業環境変動研究センター, 日本)
- P7-5 窒素・リン除去型浄化槽の処理特性および海外への適用可能性
田畑 洋輔 (フジクリーン工業(株), 日本)
- P7-6 湖沼流域における生活排水中栄養塩類の浄化槽による除去
藤村 葉子 (千葉大学院工学研究科共生応用化学専攻, 日本)
- P7-7 環境技術実証事業の概要と有機性排水処理技術の性能評価
岸田 直裕 ((一社) 埼玉県環境検査研究協会, 日本)
- P7-8 鉛直流式人工湿地による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸の除去
井上 大介 (大阪大学, 日本)
- P7-9 グレイウォーターフットプリントによる油水分離装置導入効果の解明
大塚 俊彦 ((一社) 埼玉県環境検査研究協会, 日本)
- P7-10 ヨシと分解菌の共生系による効率的かつ持続的な内分泌攪乱化学物質除去
遠山 忠 (山梨大学, 日本)
- P7-11 スリランカにおける水域の汚染とその緩和
Indra Vijitha Warnakula Ediriweera (National Water Supply and Drainage Board, スリランカ)
- P7-12 マグネシウム系材料による底質改善とその応用
田中 俊也 (宇部マテリアルズ(株), 日本)
- P7-13 養豚廃水処理施設に存在するアナモックス菌バイオフィルムの探索
和木 美代子 ((国研) 農研機構畜産研究部門, 日本)
- P7-14 液膜式酸素供給装置を用いたエビ養殖池における省エネルギー化の促進
Passaworn Warunyuwong (山口大学大学院創成科学研究科環境共生系専攻, タイ)
- P7-15 湖沼底層の貧酸素化が底質中の藻類細胞の再増殖に及ぼす影響
田中 仁志 (埼玉県環境科学国際センター, 日本)
- P7-16 面源汚染制御の経済学：経済理論研究の概観と相対評価アプローチの提案
澤田 英司 (九州産業大学, 日本)
- P7-17 鉄イオン溶出法による富栄養河川のリン削減に関する実用装置の開発
福田 直三 (復建調査設計(株), 日本)
- P7-18 ベトナム北部における電気電子機器廃棄物のリサイクル処理に伴う河川生態系の化学物質汚染の実態調査
松神 秀徳 ((国研) 国立環境研究所, 日本)
- P7-19 下水処理水有効利用のための下水再生処理システムの実証研究
中村 知弥 ((株) 西原環境, 日本)



- P7-20 下水処理場における化学物質の除去－1,4-ジオキサンの場合－
藤田 貴之（茨城県鹿島下水道事務所, 日本）
- P7-21 湖沼生態系における7つの短鎖塩素化パラフィンの分配可能性と生物蓄積性の評価
Zhenyi Zhang（(国研) 国立環境研究所, 日本）
- P7-22 チャド湖：平和のための回復の必要性
Natoi Allah Ringar (PHILOSOPHY OF ENVIRONMENTAL EDUCATION AND
SPECIALIST IN PROTECTION AND DEVELOPMENT OF LAKE CHAD, チャド)
- P7-23 導電性高分子を用いた水質改善とプランクトンの培養
後藤 博正（筑波大学数理物質科学研究科物性・分子工学専攻, 日本）
- P7-24 養豚廃水の活性汚泥処理における低溶存酸素条件での窒素除去 -パイロットプラント
運転結果 -
浅岡 丈楽（茨城県畜産センター, 日本）
- P7-25 滋賀県の下水道が琵琶湖の水質保全に果たしてきた役割と今後の課題について
松本 寛（滋賀県, 日本）
- P7-26 汽水性貧酸素水塊の改善効果検証実験
杉原 幸樹（(国研) 土木研究所寒地土木研究所, 日本）
- P7-27 投げ込み式放電リアクタによる難分解性物質の分解と細菌数の変動
松林 裕士（茨城大学, 日本）

第8分科会：市民活動と環境学習

- P8-1 水環境問題に取り組む市民運動 -- 水郷水都全国会議の34年 --
浅野 敏久（広島大学, 日本）
- P8-2 霞ヶ浦の清掃活動と今後の展望
斉藤 憲治（NPO 法人水辺基盤協会, 日本）
- P8-3 地域社会協働による都市池の保全と再生
杉田 文（千葉商科大学, 日本）
- P8-4 チャバラ湖の生態学上の重要性に対する意識を高めるための戦略としてのバード
ウォッチング
Alejandro Juárez Aguilar (Institute Corazón de la Tierra, メキシコ)
- P8-5 水害常襲地における復興まちづくりの事例からみる地域社会の持続性に影響を与える
要素の検討
野村 一貴（東京大学大学院教育学研究科, 日本）
- P8-6 霞ヶ浦環境科学センターにおける環境学習実施後の環境保全意識の変容
細田 直人（茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 日本）
- P8-7 人類は自らの終焉へ向けて突き進んでいる！ペースを落とすことは可能だろうか？
Ozgur Aydincak (General Directorate of State Hydraulic Works (DSI), トルコ)
- P8-8 ペットボトルロケットを使った湖沼環境サンプリング教材の開発状況
横山 正樹（宇宙環境教育研究会, 日本）
- P8-9 池干しによる茨城県自然博物館の「とんぼの池」の再生 -- 絶滅危惧種の生息域外保
全と自然保護の普及活動の場として --
土屋 勝（茨城県立東海高等学校, 日本）
- P8-10 エコツーリズム施設評価と先住民コミュニティによるボガ湖保全の視点
Ebtisamul Zannat Mim (University of Dhaka, バングラデシュ)

- P8-11 富士五湖湖沼群の特性を用いた環境教育プログラムの開発
吉澤 一家 (山梨県衛生環境研究所, 日本)
- P8-12 印旛沼における水質および水環境健全性指標調査 (2012 ~ 2017 年)
高木 結花 (千葉工業大学工学部生命環境科学科, 日本)
- P8-13 霞ヶ浦と諏訪湖における下水道普及率と汚濁物濃度の関係
宮内 正行 ((一社) 霞ヶ浦市民協会, 日本)
- P8-14 牛久沼における水質浄化の取組
小川 邦彦 (茨城県県民生活環境部環境対策課, 日本)
- P8-15 身近な水環境における持続可能な植生管理と地域住民との関わり~千葉県印旛沼の事例~
大寄 真弓 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム, 日本)
- P8-16 フィリピン・ラグナ湖のミクロ流域スケールにおける順応的流域ガバナンスのためのハイブリッド型フレームワークの進化
Jocelyn Fabian Siapno (Laguna Lake Development Authority, フィリピン)
- P8-17 オオハクチョウ最南端越冬地『古徳沼自然を守る会』活動
目黒 嵩 (那珂市瓜連地区まちづくり委員会, 日本)

第9分科会：統合的湖沼流域管理 (ILBM)

- P9-1 流域水環境の統合処理システムの開発と考察
Guang Yang (Beijing Enterprises Water Group Limited, 中国)
- P9-2 霞ヶ浦の水環境に対する市民の意識向上に向けて
番場 泰彰 (国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所湖沼環境課, 日本)
- P9-3 国土交通省の管理ダムにおける水質マネジメント
西村 宗倫 (国土技術政策総合研究所, 日本)
- P9-4 霞ヶ浦の湖沼浄化地域活動
鎌田 勲 (つくば市環境マイスター, 日本)
- P9-5 地域的環境規制の対象である、バカル湖におけるカルスト・システムの作用の影響
Silvana Marisa Ibarra Madrigal (Colegio de la Frontera Sur, メキシコ)
- P9-6 フィリピン・ラグナ湖周辺を対象とした洪水氾濫解析のための土地利用モデルの構築
大西 暁生 (横浜市立大学, 日本)
- P9-7 都市定住のための気候変動に耐性のある水保全：インドのバンガロールの事例での湖沼の役割
Jagannatha Venkataramaiah (Civil Engg Dept, Jain University, インド)
- P9-8 メキシコ、グアナフアト州のユリリア湿地におけるホテイアオイの総体的管理
Juan Manuel López Gutierrez (Universidad de Guanajuato, División de Ciencias de la Vida, メキシコ)



◆ 論文表彰について

いばらき霞ヶ浦賞

茨城県では、湖沼、河川またはこれらに関連する分野の研究や技術開発の進展及び情報の交換等に寄与するため、開発途上国の10件以内の優れた論文に対していばらき霞ヶ浦賞（賞状及び副賞）を授与します。授与式については、10ページをご覧ください。

優秀発表賞

参加、発表に対する意欲の向上及び研究意欲の向上を目指し、分科会における全ての発表者を対象とし、優秀な発表を表彰します。賞は、口頭発表部門とポスター発表部門に分けて、分科会ごとに数件程度授与します。表彰式については、60ページをご覧ください。

(10) 学生会議

次世代を担う子供たちの水環境に関する意識向上と、身近な湖沼等を誇りに思う郷土愛の醸成を図るため、水や湖沼に関する研究や取組について発表及びディスカッションを実施します。

日時 平成30年10月14日(日) 10:00-17:00

参加費 無料

スケジュール

時間	内容	会場
9:00-10:00	受付	エントランスホール
10:00-10:15	開会式	大ホール
10:20-10:50	研究・取組発表	小学生：中ホール 300 中学生：中ホール 200 高校生：大ホール
10:50-11:00	休憩	
11:00-12:00	研究・取組発表	小学生：中ホール 300 中学生：中ホール 200 高校生：大ホール
12:00-13:00	昼休憩	
13:00-14:30	ポスターセッション	大会議室 101, 102
14:30-14:45	休憩	
14:45-16:00	ディスカッション	小学生：中ホール 300 中学生：中ホール 200 高校生：大ホール
16:00-16:15	休憩	
16:15-17:00	閉会式	大ホール

◆ 研究・取組発表

小学生、中学生、高校生の3部門に分かれて口頭発表を行います。

テーマ 「水や湖沼に関係した自然、自然の恵みについて」

時間 10:20-12:00

①小学生 (中ホール 300)

- | | |
|--|---|
| OE1 北浦の水環境から得られる恵みを調べ、北浦の素晴らしさを見つけ、北浦をきれいにしよう！
銚田市立白鳥西小学校 (茨城県) | OE2 サケレンジャー隊 10年の物語
逆川こどもエコクラブ (茨城県) |
| OE3 ムサシトミヨの繁殖・保護活動
熊谷市立久下小学校 (埼玉県) | OE4 霞ヶ浦の環境調査
稲敷市立浮島小学校 (茨城県) |
| OE5 知ろう・守ろう 私たちの霞ヶ浦
小美玉市立玉里東小学校 (茨城県) | OE6 「ラムサールびわっこ大使」の活動
ラムサールびわっこ大使 (滋賀県) |
| OE7 「ぼくら環境守り隊」湖沼につながる湖沼前
川流域の環境を守る活動を通して
茨城町立長岡小学校 (茨城県) | OE8 私たちのくらしと霞ヶ浦のつながりを
しらべよう
土浦市立上大津東小学校 (茨城県) |
| OE9 水、森林、人々：タイ北東部における持続
可能な水資源管理の構築
メタニードル小学校 (タイ) | |



②中学生（中ホール 200）

- OJ1 ホタルネットワーク mito
「黄門様のホタル復活」プロジェクト
水戸英宏中学校（茨城県）
- OJ2 霞ヶ浦の水質が変化する要因を探る
美浦村立美浦中学校（茨城県）
- OJ3 豊里中学校周辺の水環境と浄化
つくば市立豊里中学校（茨城県）
- OJ4 在来種の環境づくりと外来種の活用方法
学校法人塚原学園青葉台初等・中等学部
（茨城県）
- OJ5 地域に残る貴重な自然の保護活動 17年次
ひたちなか市立阿字ヶ浦中学校（茨城県）
- OJ6 素敵な滋賀の水辺をアピールする方法
TANAKAMI こども環境クラブ（滋賀県）
- OJ7 牛久沼の現状と水質浄化方法の探究
牛久市立牛久第三中学校（茨城県）
- OJ8 霞ヶ浦に流入する恋瀬川の水質調査と
水質浄化の実験
石岡市立国府中学校（茨城県）
- OJ9 竹林の里山侵略の謎を解く
土浦市立土浦第四中学校（茨城県）

③高校生（大ホール）

- OH1 茨城町を元気に！
～茨城東高校のECO活動～
茨城県立茨城東高等学校（茨城県）
- OH2 ミュージカルを通じて伝える湖沼と水鳥の
保護活動
劇団シンデレラ（愛知県）
- OH3 守山市におけるホタル再生プロジェクト
滋賀県立守山中学・高等学校（滋賀県）
- OH4 宍塚の谷津田における古代米づくりと
淡水プランクトンの季節的変動
茨城県立竹園高等学校（茨城県）
- OH5 下流水域に内陸部起因の廃棄ごみを与える
問題の解決への取り組み
山陽女子中学校・高等学校（岡山県）
- OH6 田沢湖の生態系調査
秋田県立大曲農業高等学校（秋田県）
- OH7 市民活動による千波湖のアオコ対策と
その成果
逆川こどもエコクラブ（茨城県）
- OH8 アオコの凝集と肥料化の検討
清風中学校・高等学校（大阪府）
- OH9 生物による水質浄化システム
青森県立名久井農業高等学校（青森県）

※学生会議の発表団体には（ ）内に所在する都道府県名を記載しています。

※タイトルの和訳は、事務局にて行っております。

◆ ディスカッション

小学生、中学生、高校生の3グループに分かれて討議を行います。

テーマ 「自然のめぐみ 命を育む水 ー共に生きる未来ー」

時間 14:45-16:00

①小学生 (中ホール 300)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| DE1 逆川こどもエコクラブ (茨城県) | DE2 稲敷市立浮島小学校 (茨城県) |
| DE3 小美玉市立玉里東小学校 (茨城県) | DE4 ラムサールびわっこ大使 (滋賀県) |
| DE5 鉾田市立旭北小学校 (茨城県) | DE6 TANAKAMI こども環境クラブ (滋賀県) |

②中学生 (中ホール 200)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| DJ1 水戸英宏中学校 (茨城県) | DJ2 美浦村立美浦中学校 (茨城県) |
| DJ3 学校法人塚原学園青葉台初等・中等学部 (茨城県) | DJ4 TANAKAMI こども環境クラブ (滋賀県) |
| DJ5 石岡市立国府中学校 (茨城県) | DJ6 智学館中等教育学校 (茨城県) |

③高校生 (大ホール)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| DH1 劇団シンデレラ (愛知県) | DH2 滋賀県立守山中学・高等学校 (滋賀県) |
| DH3 茨城県立竹園高等学校 (茨城県) | DH4 山陽女子中学校・高等学校 (岡山県) |
| DH5 逆川こどもエコクラブ (茨城県) | DH6 清風中学校・高等学校 (大阪府) |

◆ ポスターセッション

各団体が作成したポスターの前で、研究・取組について発表及び説明を行います。

テーマ 「水や湖沼に関係した自然、自然の恵みについて」

時間 13:00-14:30

会場 大会議室 101, 102 (小・中・高共通)

①小学生

- | | |
|---|---|
| P1 北浦の水環境から得られる恵みを調べ、北浦の素晴らしさを見つけ、北浦をきれいにしよう！
鉾田市立白鳥西小学校 (茨城県) | P2 知ろう・守ろう 私たちの霞ヶ浦
小美玉市立玉里東小学校 (茨城県) |
| P3 「ぼくら環境守り隊」 湖沼につながる湖沼前川流域の環境を守る活動を通して
茨城町立長岡小学校 (茨城県) | P4 水、森林、人々：タイ北東部における持続可能な水資源管理の構築
メタニードル小学校 (タイ) |
| P5 自然環境の探求と共生を目指して
鉾田市立旭北小学校 (茨城県) | P6 つくば市都市公園の池の水質ランキングと季節変動 (春～夏)
洞峰学園つくば市立二の宮小学校 (茨城県) |
| P7 霞ヶ浦の生物調査
稲敷市立浮島小学校 (茨城県) | P8 霞ヶ浦の水質調査
稲敷市立浮島小学校 (茨城県) |
| P9 地域の自然環境を守る - 自然の恵みと私たちの現在と将来の暮らし -
石岡市立北小学校 (茨城県) | P10 琵琶湖や地域の水辺の生き物調べ
TANAKAMI こども環境クラブ (滋賀県) |



- P11 4代目豊年エビの卵をかえそう大作戦
～生息する場所の水質を探って～
つくばみらい市立三島小学校（茨城県）
- P12 霞ヶ浦のワカサギふ化体験
～ワカサギの食文化～
かすみがうら市立霞ヶ浦北小学校（茨城県）
- P13 かすみがうら市と石岡市のおまつりの比較
～自然のめぐみと文化～
学校法人塚原学園 青葉台初等・中等学部
（茨城県）
- P14 様々な生き物の視点から、人間はこれから
水をどのように利用すべきか
開智望小学校（茨城県）

②中学生

- P15 ホタルネットワーク mito
「黄門様のホタル復活」プロジェクト
水戸英宏中学校（茨城県）
- P16 霞ヶ浦に流入する恋瀬川の水質調査と
水質浄化の実験
石岡市立国府中学校（茨城県）
- P17 竹林の里山侵略の謎を解く
土浦市立土浦第四中学校（茨城県）
- P18 上質な潤沼シジミの特徴
智学館中等教育学校（茨城県）
- P19 潤沼に根ざす新たなご当地メニューの開発
智学館中等教育学校（茨城県）
- P20 潤沼を中心とする水運は、近世の周辺地域
社会にどのような変化を与えたのか
智学館中等教育学校（茨城県）
- P21 多様な体験活動から環境への意識を育む
取り組み
やちよエコクラブ（茨城県）
- P22 霞ヶ浦の水質についての研究
阿見町立阿見中学校（茨城県）
- P23 ふるさとの水辺を守る～園部川の水質調査～
小美玉市立小川南中学校（茨城県）
- P24 かすみがうら市のさつまいも調べ
～地域と食の関係～
学校法人塚原学園青葉台初等・中等学部
（茨城県）
- P25 フィリピン・ミンダナオ島のダコン・ナポ
湖とアグサン川における種の豊かさと、水
質生物指標としての大型無脊椎動物の分布
国立シバガット家内工業中学校（フィリピン）

③高校生

- P26 茨城町を元気に！
～茨城東高校のECO活動～
茨城県立茨城東高等学校（茨城県）
- P27 宍塚の谷津田における古代米づくりと
淡水プランクトンの季節的変動
茨城県立竹園高等学校（茨城県）
- P28 下流域に内陸部起因の廃棄ごみが
与える問題の解決への取り組み
山陽女子中学校・高等学校（岡山県）
- P29 田沢湖の生態系調査
秋田県立大曲農業高等学校（秋田県）
- P30 アオコの凝集と肥料化の検討
清風中学校・高等学校（大阪府）
- P31 冬期灌水水田作成のための水撃ポンプの
制作及び設置
千葉県立松戸南高校（千葉県）
- P32 湖沼生態系再生のための水草飼育ゲージの
作成および運用
千葉県立松戸南高校（千葉県）
- P33 シジミの色と水の成分
常磐大学高等学校（茨城県）
- P34 水質に対する周辺環境からの影響
～那珂川水域と霞ヶ浦水域の対比～
茨城県立水戸農業高等学校（茨城県）
- P35 学校周辺の琵琶湖と河川の水質調査
滋賀県立瀬田工業高等学校（滋賀県）
- P36 北山高校周辺河川の水質調査
（ジニンサ川・志慶真川・大井川）
沖縄県立北山高等学校（沖縄県）
- P37 今帰仁村内の河川調査
～水生生物と水質による環境評価～
沖縄県立北山高等学校（沖縄県）

- P38 身近な河川の将来像
つくば国際大学高等学校（茨城県）
- P40 二価鉄イオンの水域環境に対する効果
神奈川県立海洋科学高等学校（神奈川県）
- P42 大北川・花園川の水質調査と生物調査の比較
茨城県立磯原郷英高等学校（茨城県）
- P44 天然物による霞ヶ浦の浄水
茗溪学園中学校高等学校（茨城県）
- P46 身近な水とのつながり
東洋大学附属牛久高等学校（茨城県）
- P48 水戸のヒカリモ
茨城県立水戸第二高等学校（茨城県）
- P50 三方湖におけるブルーギルの生存とヒシの被覆面積との関係
福井県立若狭高等学校（福井県）
- P52 霞ヶ浦を水上飛行場にすることは可能か
茨城県立土浦第三高等学校（茨城県）
- P54 谷津干潟に大量繁殖するアオサの活用方法の取組
千葉県立津田沼高等学校（千葉県）
- P56 三方湖におけるミシシippアカミミガメの食性について
福井県立若狭高等学校（福井県）
- P58 「霞ヶ浦における人間と水・科学と水の関わり」①歴史的背景 ②ゲル化実験
土浦日本大学高等学校（茨城県）
- P60 千波湖における魚類相の変化
茨城高等学校（茨城県）
- P62 フィリピン・ミンダナオ島エスペランザのダコン・ナポ湖における淡水産甲殻類（節足動物門：甲殻類）の分布と多様性、ならびに社会経済的に貴重な種に関する記録
国立シバガット家内工業高校（フィリピン）
- P39 長茂川の水質と水生生物について
茨城県立鉾田第二高等学校（茨城県）
- P41 琵琶湖由来の水草堆肥を用いて育てた農作物の価値に関する研究
滋賀県立守山中学・高等学校（滋賀県）
- P43 霞ヶ浦の底泥で発電は可能か
茗溪学園中学校高等学校（茨城県）
- P45 東滑川海浜緑地のヒカリモによる黄金色の膜と水質の研究
茨城県立日立第一高等学校（茨城県）
- P47 神戸市内における淡水ガメ調査と日本固有種であるニホンイシガメの保全活動について
神戸山手女子高等学校（兵庫県）
- P49 とんぼの池の水質及び動物相の調査
ミュージアムパーク茨城県自然博物館（茨城県）
- P51 水生生物の可視光における色別光走性
茨城県立土浦第三高等学校（茨城県）
- P53 ビーカーの中に繁殖する微生物
～霞ヶ浦と相関があるのか～
茨城県立土浦第三高等学校（茨城県）
- P55 琵琶湖・淀川流域・田上地区のメダカ事情～池、川、田んぼに生息するメダカのDNA鑑定を通して～
TANAKAMI こども環境クラブ（滋賀県）
- P57 淡水二枚貝の栄養塩除去能力とその有用性
茨城県立土浦第一高等学校（茨城県）
- P59 霞ヶ浦の生態系・外来魚に関する考察
茨城県立水海道第一高等学校（茨城県）
- P61 自然と人間の共生について
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校（茨城県）
- P63 ミュージカルを通じて伝える湖沼と水鳥の保護活動
劇団シンデレラ（愛知県）



(11) 交流行事

◆ 歓迎パーティー

- 日時** 平成 30 年 10 月 14 日 (日) 18:00-20:00
- 会場** ホテルグランド東雲「東雲の間」(茨城県つくば市小野崎 488-1)
- 概要** 会議の開催に先立ち、参加者の皆さんを歓迎するパーティーを行います。会場では、飲み物と料理をご用意いたします。参加者の皆さんの交流の場としてご利用ください。

◆ 参加者交流会

- 日時** 平成 30 年 10 月 18 日 (木) 18:00-20:00
- 会場** つくば国際会議場 大会議室 101, 102, エントランスホール
- 概要** 閉会式前日に会議参加者の交流会を行います。会場では、飲み物と料理をご用意いたします。また、優秀発表賞の表彰式を行います。最後の交流の機会となりますので、会議を振り返って国や立場を超えた意見交換の場としてご利用ください。

◆ レセプション

レセプション(平成 30 年 10 月 15 日(月) 18:00-20:00)については、招待者のみで開催いたします。招待者の方は、恐れ入りますが、当日、招待状をお持ちいただきますようお願いいたします。

(12) 展示会

日時 平成30年10月15日(月)～19日(金)(17日(水)を除く)9:00-17:00※
※19日は13:00まで

会場 つくば国際会議場 多目的ホール

概要 企業や研究機関等の「科学的知見に基づくモニタリング」や「持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術」等についての先進的な実例や活動内容等を展示します。

出展者一覧 (小間数順, 五十音順に記載)

No.	出展者名	小間数	No.	出展者名	小間数
1	(株) 日立製作所	6	22	宇部工業(株)	1
2	(一社) 茨城県環境管理協会	4	23	econet いばらき by 常磐大松原ゼミ&水戸英宏中科学同好会	1
3	茨城大学	4	24	応用地質(株)	1
4	(国研) 農研機構	4	25	小美玉市	1
5	JX 金属環境(株)	3	26	共和化工(株)	1
6	(株) カスミ	2	27	(一社) 埼玉県環境検査研究協会	1
7	環境システム(株)	2	28	「逆川こどもエコクラブ」with 丸太建設	1
8	管清工業(株)	2	29	(株) サンユウ	1
9	国土交通省国土地理院	2	30	(株) シエル・テール・ジャパン	1
10	(国研) 国立環境研究所	2	31	(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所	1
11	滋賀県	2	32	(株) 生物技研	1
12	筑波大学	2	33	大央電設工業(株)	1
13	(株) 西原環境	2	34	(公財) 日本下水道新技術機構	1
14	ノダック(株)	2	35	(株) ハウステック	1
15	フジクリーン工業(株)	2	36	パシフィックコンサルタンツ(株)	1
16	(株) ワールドケミカル	2	37	ビーエルテック(株)	1
17	(有) アルファサービス	1	38	ピーティール・ウルトラテックス・インドネシア	1
18	(株) 安斉管鉄	1	39	(株) 日吉	1
19	いであ(株)	1	40	(株) 堀場アドバンスドテクノ	1
20	いばらきコープ生活協同組合	1	41	前澤工業(株)	1
21	(公社) 茨城県水質保全協会	1	42	WEF 技術開発(株)	1

(13) 協賛企業・団体の紹介パネル展示

日時 平成30年10月15日(月)～19日(金)(17日(水)を除く)9:00-17:00※
※19日は13:00まで

会場 つくば国際会議場 2階通路

概要 協賛をいただいた企業、団体の取組等について紹介いたします。

(14) 主催者等の取組展示

日時 平成30年10月15日(月) 8:00-17:00
平成30年10月16日(火), 18日※(木) 9:00-17:00 (※コアタイム 11:00-14:00)
平成30年10月19日(金) 9:00-13:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 202B

概要 主催者(県, (公財) 国際湖沼環境委員会) や共催者(国, 市町等) における霞ヶ浦等に関する総合的な取組を紹介します。



(15) ワークショップ

会議参加者が自ら企画するワークショップが以下のとおり開催されます。ワークショップへの参加を希望する方は、各ワークショップの連絡先に「氏名」「所属」「連絡先」を記載の上ご連絡ください。

ワークショップへの参加希望者は、いずれかの日程の本会議の「参加登録証」を所持している必要があります。

※「★」記号を「@」に置き換えてください。

ワークショップ① 「日本海側汽水湖の現状と生態系機能の再生」

宍道湖・中海、湖山池や河北潟など、日本海側各地の代表的な汽水湖の現状と課題について情報共有し、それらが本来持っている生態系機能をいかに回復するかその方策を探る。

日時 平成30年10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201A

申込・連絡先

NPO 法人河北潟湖沼研究所 永坂 正夫 Email: nagasaka★seiryu-u.ac.jp

ワークショップ② 「シジミの棲める湖沼環境を目指した自治体の取組」

湖沼の特徴や直面する課題を踏まえ、各地のこれまでの取組を共有し、今後、自治体が連携して進める湖沼の水環境改善において、必要となる取組を議論し、行政が担うべき取組のステップアップにつなげる。

日時 平成30年10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201B

申込・連絡先

滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 田仲 輝子 Email: dk00★pref.shiga.lg.jp

ワークショップ③ 「富栄養化を食生活の窒素フットプリントから考える」

環境中に過剰な反応性窒素が存在すると、富栄養化、地球温暖化、生物多様性の減少などの環境問題を引き起こします。本ワークショップでは、参加者の皆様と軽食を共にしながら、『窒素フットプリント』という新しい概念を理解すると共に、私たち消費者の食に関わるライフスタイルと反応性窒素による環境負荷との密接な関係や、食生活の改善が窒素負荷の削減に及ぼす影響などについて、自由に意見交換することを目的とします。

日時 平成30年10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 202A

申込・連絡先

茨城大学農学部 黒田 久雄 Email: hisao.kuroda.agr★vc.ibaraki.ac.jp

ワークショップ④ 「統合管理のための情報プラットフォームの役割 アジアの湖沼：SDGs の教訓と経路」

- ・アジアの湖沼環境管理の複雑さと情報プラットフォームの役割を理解する。
- ・琵琶湖、ラグナ湖（フィリピン）、トンレサップ湖（カンボジア）の経験に基づき湖沼環境を統合的に管理するため、情報プラットフォームの確立に向けた効果的なアプローチを議論する。
- ・湖沼情報プラットフォームの設立、使用、管理に係る利害関係者の参加の向上を目指す。

日時 平成30年10月16日（火） 18:00-20:00

平成30年10月17日（水） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 303

申込・連絡先

（公財）地球環境戦略研究機関 Binaya Raj Shivakoti Email: shivakoti★iges.or.jp

ワークショップ⑤ 「南アジアの湖沼流域管理における問題と挑戦」

南アジアの湖沼流域管理における問題と挑戦の経験を共有し検討する。

日時 平成30年10月16日（火） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 304

申込・連絡先

国際湿地保全連合南アジア Ajit Kumar Pattnaik Email: ajitpattnaik13★gmail.com

ワークショップ⑥ 「水辺の環境と社会を守る市民の活動に関する情報とアイデアを交換しましょう。」

水郷水都全国会議の活動を紹介するとともに、会議参加者の皆さんと水辺を守る市民活動の経験、理念と課題について意見交換をします。

日時 平成30年10月16日（火） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 404

申込・連絡先

NPO 法人霞ヶ浦アカデミー 原田 泰 Email: workshop17wlc ★ tharada.sakura.ne.jp

ワークショップ⑦ 「西浦・北浦＜千年村＞に生きる人々～持続的な水辺のくらしの歴史的分析」

霞ヶ浦水系は、稲作文化の伸展とともに発展した地域であり、現在にも引き継がれている地名が10世紀の辞書に掲載されていることから「千年村」の通称もある。こうした持続性ある暮らしを象徴する千年村を事例に、西浦・北浦の水辺に生きた人びとと生業の知恵を歴史的かつ科学的に分析することで今後の湖沼と人びとの関係性を考える。

日時 平成30年10月16日（火） 18:00-20:00

平成30年10月17日（水） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室 406

申込・連絡先

常陸国水辺空間フォーラム 高埜 栄治 Email: m50864su★yahoo.co.jp



ワークショップ⑧ 「ILBM 研修等 研修修了者の交流」

ILBM 研修等終了後に、帰国した研修参加者が繋がりを持つことにより、今後の湖沼管理に役立てる。

日時 平成 30 年 10 月 17 日（水） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201A

申込・連絡先

（公財）国際湖沼環境委員会 山崎 伸子 Email: infoilec★ilec.or.jp

ワークショップ⑨ 「アフリカ湖沼の水質汚染防止と飢餓を防ぐエコサントイレ普及活動の成功報告 --SDGs 2,6,14 の実践」

NICCO は、マラウイ湖とヴィクトリア湖地域と協力して、村の開発を支援し、エコサンのトイレと清潔な水を提供して飢餓から救っています。NICCO の活動により点源汚染が抑制され、村の農業従業者数が増加しました。NICCO の経験は、世界各地に容易に伝えることができます。このワークショップは、アフリカの専門家による経験を提供しています。

日時 平成 30 年 10 月 17 日（水） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 201B

申込・連絡先

（公社）日本国際民間協力会（NICCO） 北垣 健太 Email: info★kyoto-nicco.org

ワークショップ⑩ 「持続可能な湖沼管理の政策展開に向けたインドネシアと日本との連携について」

インドネシア国内と日本の湖沼における管理の現状や課題、対策の方向性等を共有することにより、今後両国の持続可能な湖沼管理の政策展開に資する。

日時 平成 30 年 10 月 17 日（水） 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室 202A

申込・連絡先

環境省 水・大気環境局水環境課 山田 匡 Email: MIZU13★env.go.jp

(16) エクスカーション

◆ 霞ヶ浦コース

日時 平成 30 年 10 月 17 日 (水) 8:40-16:50

概要 霞ヶ浦周辺の国、県の環境関連施設等の現地視察を行い、霞ヶ浦の生態系サービスに触れ合うとともに、霞ヶ浦の水質浄化に係る取組を学びます。

行程 (*班によって出発・到着時間、視察の順番が前後します)

時間	所要時間	項目	場所
8:40	—	(出発)	つくば国際会議場
9:05-9:25	20 分	①視察	石田湖岸
9:35-10:10	35 分	②視察	自然再生事業 (B 区間)
10:20-11:00	40 分	③視察	自然再生事業 (H 区間)
11:00-11:05	5 分	④視察	川尻川ウエットランド
11:10-13:00	110 分	⑤プレゼンテーション・昼食	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
13:20-14:10	50 分	⑥視察	茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター
14:20-15:10	50 分	⑦視察	霞ヶ浦直接浄化実証施設
15:25-16:15	50 分	⑧視察	茨城県企業局霞ヶ浦浄水場
16:50		(到着)	つくば国際会議場

地図



(出典: 国土地理院の地理院地図(標準地図)を掲載)



視察先の概要

視察先	概要
	<p>①石田湖岸 [土浦市手野町] 湖水を直接浄化装置によって浄化し、湖内の閉鎖された区域に放流することで、浄化効果を視覚化し、住民に霞ヶ浦への親しみを持ってもらうことを目的とした場所です。</p>
	<p>②自然再生事業 (B 区間) [土浦市田村町] 多様な生物の生息環境を再生させることを目標に、浅水域、静水域、深場を持つ湾入部などの湖岸環境を整備しています。この場所では、ボート体験など環境学習の場として利用されています。</p>
	<p>③自然再生事業 (H 区間) [土浦市沖宿町] 既存植生を保全しながら、湖と連続性を持つ水辺空間を再生することを目標として、突堤や潜堤、養浜などの整備を行っています。この場所では、水生生物調査など環境学習の場として利用されています。</p>
	<p>④川尻川ウエットランド [かすみうら市戸崎] ウエットランド（湖内湖植生浄化施設）は、流入河川河口部に、仕切堤で区切った小さな湖（湖内湖）を設け、流入する汚濁物質の滞留や沈降による負荷軽減と、湖岸植生帯が持つ浄化機能や生物生息環境の創出を目的とした施設です。</p>
<p>▶プレゼンテーション ▶昼食</p> 	<p>⑤茨城県霞ヶ浦環境科学センター [土浦市沖宿町] 霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼、河川の水環境や大気環境などの保全に取組むため、「調査研究・技術開発」「環境学習」「市民活動との連携・支援」、「情報・交流」の4つの機能を有する総合的な施設です。</p> <p>【プレゼンテーション発表機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所 ・ミュージアムパーク茨城県自然博物館 ・茨城県企業局霞ヶ浦浄水場、茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター ・茨城県県民生活環境部環境対策課・茨城県霞ヶ浦環境科学センター
	<p>⑥茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター [土浦市湖北] 処理水量 80,336t/日（平成 29 年度）の下水処理場です。霞ヶ浦に下水処理水を放流しているため、全系列で COD、窒素及びりん除去のための高度処理を行っています。</p> <p>現在、処理系列は 13 系列あり、それらのうち 2 系列では「担体投入型修正バーデンフォ法」という高効率高度処理法を日本で唯一採用しています。</p>
	<p>⑦霞ヶ浦直接浄化実証施設 [土浦市川口] 土浦港内の湖水を汲み上げ、アオコなどの植物プランクトンの増殖要因の一つとなっているリン等を削減することにより、植物プランクトンの発生を抑制し、水質を改善する実証実験を行っています。処理能力は 1 万 m³/日、原水に凝集剤と磁性粉を添加し、フロック（凝集物）を磁石で回収しています。</p>
	<p>⑧茨城県企業局霞ヶ浦浄水場 [土浦市大岩田] 霞ヶ浦を水源とする浄水場です。つくば市や土浦市等に水道水を供給しています。より安全で安心な水道水を安定的に供給するため、新しい高度処理技術（帯磁性イオン交換樹脂処理と促進酸化処理を組み合わせた世界初の処理技術）を導入する取り組みを行っています。</p>

◆ 北浦・涸沼・千波湖コース

日時 平成30年10月17日（水）8:00-17:25

概要 ラムサール条約湿地に登録された涸沼に係る関係機関の取組を紹介するほか、北浦、涸沼及び千波湖の視察を行います。

行程

時間	所要時間	項目	場所
8:00	—	(出発)	つくば国際会議場
9:10-9:40	30分	①視察	北浦北部周辺地域
10:10-12:40	150分	②プレゼンテーション・昼食	いこいの村涸沼
13:20-13:40	20分	③視察	涸沼自然公園
14:20-15:20	60分	④視察	那珂機場（霞ヶ浦導水事業）
15:40-16:15	35分	⑤視察	千波湖
17:25	—	(到着)	つくば国際会議場

地図



(出典:国土地理院の地理院地図(標準地図)を掲載)



視察先の概要

視察先	概要
	<p>①北浦北部周辺地域【鉾田市安塚】 北浦北部周辺地域は、日本の原風景ともいえる手つかずの自然環境が残っています。とりわけ旧市街地と隣接する鉾田川や巴川の流域の湿地帯には、多様な生物や水生植物群など豊富な自然環境が見られます。</p>
<p>▶プレゼンテーション ▶昼食</p> 	<p>②いこいの村涸沼【鉾田市箕輪】 関東唯一の汽水湖である涸沼に面した温泉宿泊施設です。 敷地内に設置したインフォメーションプラザでは、「涸沼の自然と歴史と文化に触れる」と題して、ラムサール条約に認定された涸沼の自然などの展示を行っています。</p> <p>【プレゼンテーション発表機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大涸沼漁業協同組合 ・涸沼ラムサール条約推進協議会 ・ラムサール条約登録湿地ひぬまの会
	<p>③涸沼自然公園【東茨城郡茨城町中石崎】 涸沼近くに位置し、自然の地形を生かした公園です。 四季折々の花や野鳥に出会える散策路や溪流が流れ、高台にある太陽の広場からは涸沼が一望できます。</p>
	<p>④那珂機場（霞ヶ浦導水事業）【水戸市渡里町】 水質浄化、流水の正常な機能の維持などを目的とした霞ヶ浦導水事業のための施設のひとつです。 ここに設置された導水用ポンプから地下トンネルを通じ、那珂川の水が霞ヶ浦や桜川へ送られます。 また、霞ヶ浦から那珂川への送水もこの施設を通じて行います。</p>
	<p>⑤千波湖【水戸市千波町】 水戸市のほぼ中心にある千波湖は、市民の憩いの場・観光客のおもてなしの場となっており、日本三公園である偕楽園から見下ろす眺めは壮観です。</p>

(17) サテライト会場 環境関連行事

霞ヶ浦、潟沼、千波湖に近接する5市町（土浦市、かすみがうら市、銚田市、茨城町、水戸市）において、市民団体等と連携した環境関連行事（環境フェアやシンポジウム等）を開催しております。

サテライト会場での活動の成果は、霞ヶ浦セッションや湖沼セッションにおいて発表されます。

①帆引き船フェスタ with 世界湖沼会議

- | | |
|----|--|
| 日時 | 平成30年5月4日（金・祝） |
| 会場 | 歩崎公園（かすみがうら市坂） |
| 内容 | ・帆引き船の実物展示、帆引き船の操業及び随伴船での観覧、帆引き船の模型作り教室
・白魚丼の試食
・霞ヶ浦水質浄化関連展示 |



②水戸市環境フェア 2018

- | | |
|----|--|
| 日時 | 平成30年6月3日（日） |
| 会場 | 千波公園（水戸市千波町） |
| 内容 | ・シンポジウム、ワークショップ
・体験型イベント（ボート体験、ピオトープ作り体験、外来種フィッシング、セグウェイ体験等）
・地産地消グルメ、フリーマーケット |



③泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル

- | | |
|----|---|
| 日時 | 平成30年7月16日（月・祝） |
| 会場 | 国民宿舎「水郷」霞浦の湯前（土浦市大岩田） |
| 内容 | ・土浦市内及び土浦市近郊の高校生による将来の湖沼と流域をテーマとした発表・ディスカッション（ハイスクール会議）
・高校生による自然・環境科学をテーマとしたポスター展示
・体験型イベント（カヌー体験、キャスティングゲーム、廃ガラスアート作成、顕微鏡観察、葉づくり、クイズラリー等） |



④茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏まつり

- | | |
|----|---|
| 日時 | 平成30年8月25日（土） |
| 会場 | 茨城県霞ヶ浦環境科学センター（土浦市沖宿町） |
| 内容 | ・漁業者、農業者、林業者、里山保全のNPO及び大学生による将来の湖沼と流域をテーマに活動報告とパネルディスカッション
・体験型イベント（子ども魚釣り教室、タッチングプール、クイズラリー、各種実験・工作教室等） |





⑤帆引き船講演会&帆引き船シンポジウム「帆引き船と霞ヶ浦の魚食文化」

- 日時** 平成30年9月16日(日)
- 会場** 農村環境改善センター・歴史博物館
(かすみがうら市坂)
- 内容**
 - ・基調講演や水産業従事者及び水産業行政に携わる方々のパネルディスカッションを通し、新たな霞ヶ浦と人との共生関係を模索
 - ・小・中学生による環境学習事例発表
 - ・川魚料理の試食会
 - ・七色帆引き船操業(土浦市、行方市、かすみがうら市の3市合同操業)
 - ・歴史博物館において世界湖沼会議を記念した特別展示「日本漁業史の中の帆引き船」(9月～11月)



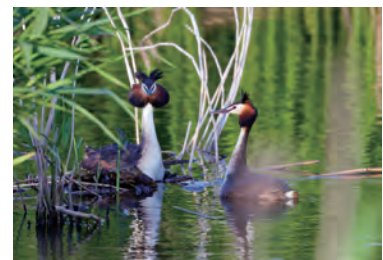
⑥第4回湖沼環境フェスティバル ラムサールシンポジウム in ひぬま

- 日時** 平成30年9月30日(日)
- 会場** 湖沼自然公園(茨城町中石崎)
- 内容**
 - ・湖沼のラムサール条約登録をテーマとしたシンポジウム
 - ・小・高校生による事例発表
 - ・環境団体、事業所、行政の取組についてのパネル展示、湖沼周辺の魚類等の展示
 - ・シジミ汁や地元の農産物等の提供
 - ・熱気球による湖沼の上空観察、屋形船での湖沼視察
 - ・ハゼ釣り体験



⑦銚田市世界湖沼会議サテライト会場

- 日時** 平成30年10月8日(月・祝)
- 会場** 銚田市総合公園(銚田市当間)ほか
- 内容**
 - ・小・中・高校生による環境学習事例発表会
 - ・市民活動のパネル展示
 - ・市民活動への参加(7月～10月)
 - ▷ホテル観賞会
 - ▷ヨシゴイを見る会
 - ▷ノルディックウォーキング自然体験会
 - ▷ツバメのねぐら入りを見る会
 - ▷カンムリカイツブリを見る会



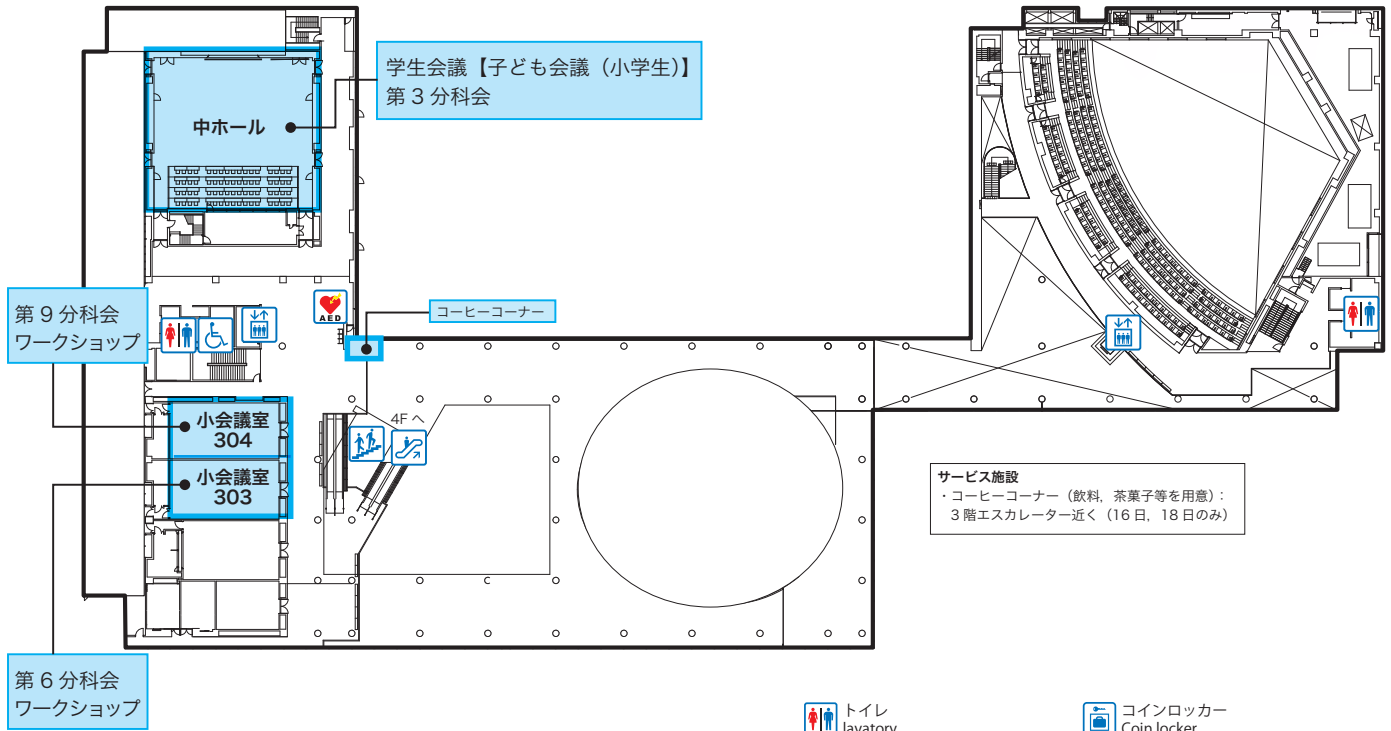
⑧サテライトつちうらメイン大会

- 日時** 平成30年10月13日(土)
- 会場** L'AUBE(メイン会場)、土浦港、J:COM スタジアム土浦(以上、土浦市川口)、アルカス土浦、うらら大屋根広場、茨城県県南生涯学習センター(以上、土浦市大和町)
- 内容**
 - ・市民団体、国、県、市及び企業等が、霞ヶ浦流域で実施している様々な取組・活動について、パネル展示、口頭発表、意見交換等を行います。
 - ・防潮堤壁画アート、湖沼写真映像展、防塵挺身隊によるゴミ拾い、カヌー・ヨット体験、観光遊覧船、つちうらが好き!ライブ、第13回土浦市環境展等



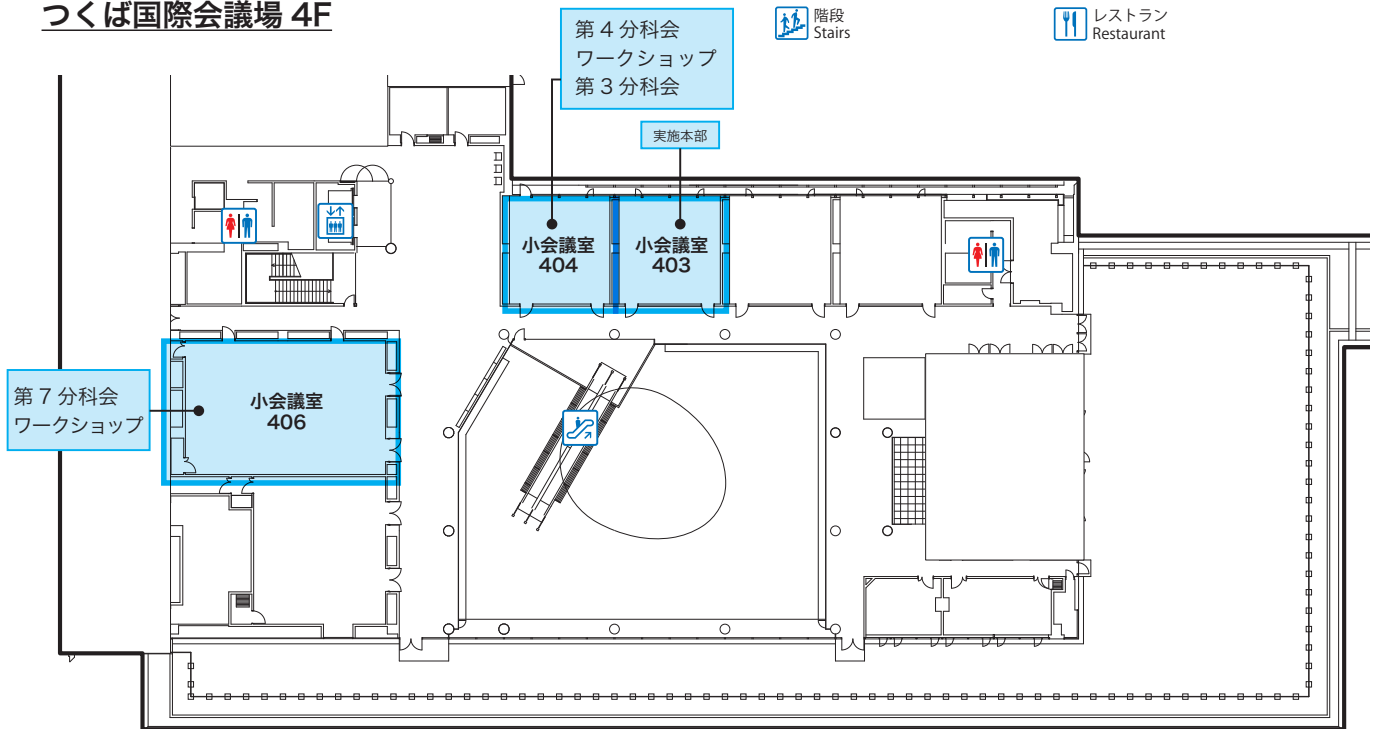


つくば国際会議場 3F



- | | |
|--|--|
| トイレ
lavatory | コインロッカー
Coin locker |
| 車いす用トイレ
Lavatory for handicapped person | AED(自動体外式除細動器)
Automated External Defibrillator |
| エレベーター
Elevator | インフォメーション
Information |
| エスカレーター
Escalator | ファックス・コピー(有料)
Facsimile & Copy (pay) |
| 階段
Stairs | レストラン
Restaurant |

つくば国際会議場 4F



8 ご案内

(1) 参加者向けプログラム

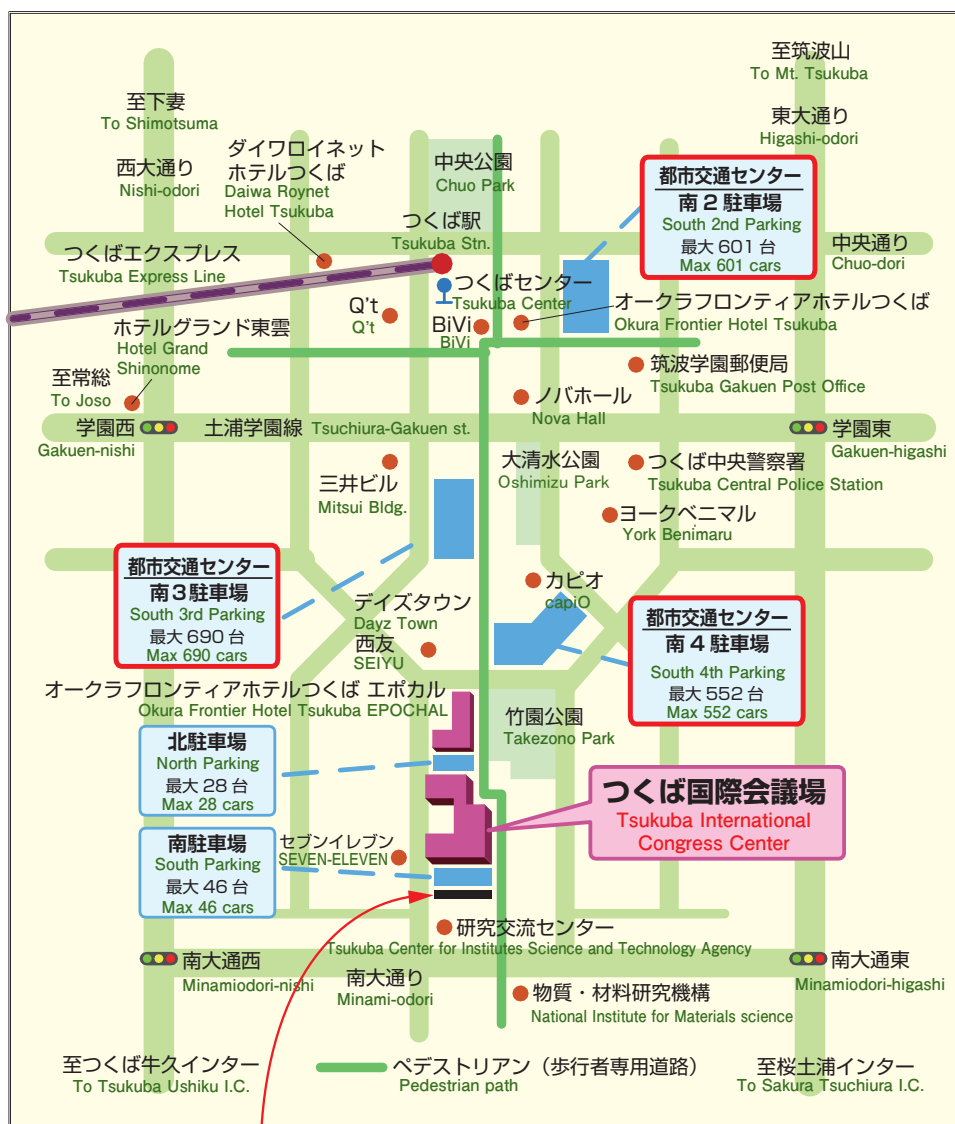
日時	10月16日(火), 18日(木)
会場	つくば国際会議場 エントランスホール
内容	世界湖沼会議フォトブース(16日)や、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「結城紬」の着心地体験(18日)など、国内外の参加者へのおもてなしプログラムを用意いたします。ぜひお立ち寄りください。

(2) 周辺駐車場のご案内

赤太枠の近隣の有料駐車場(南2, 南3, 南4駐車場)をご利用ください。研究交流センター及び近隣の店舗には駐車されませんようお願いいたします。

近隣駐車場の詳細は、次の参考ホームページ((一社)つくば都市交通センター)をご覧ください。参考ホームページ: <https://www.tutc.or.jp/carpark>

※駐車場台数に限りがございますので、できるかぎり公共交通機関をご利用ください。



※生垣があります。
研究交流センター及び近隣の店舗には駐車されませんようお願いいたします。



(3) 周辺宿泊施設のご案内

つくば市周辺の宿泊施設は、次の参考ホームページ（(一社)つくば観光コンベンション協会）をご覧ください。参考ホームページ：http://www.ttca.jp/?page_id=45

(4) 周辺飲食店のご案内

会場周辺の飲食店は、次の参考ホームページ（つくばセンター地区活性化協議会）をご覧ください。参考ホームページ：<http://www.tsukucen.net/about/gourmetmap/>

(5) その他のご案内

① お体の不自由な方などへのご案内

お体の不自由な方、車いすをご利用の方、妊婦の方につきましては、事務局あて事前にご連絡ください。会場に近い駐車場をご用意いたします。

会期前連絡先：03-3263-8695

会期中連絡先：029-861-0601

② 託児所のご案内

会期中につくば国際会議場内に託児所を用意いたします。利用には事前予約が必要です。希望される方は、お問い合わせのうえ電子メールにてお申し込みください。

連絡先：(株)プリマベールジャパン

TEL：029-871-7542、電子メール：primavera.japan★gmail.com

※「★」記号を「@」に置き換えてください。

③ 体調が悪くなった際は、お近くの係員にお申し出ください。



◆ つくば市内・近郊の観光案内

① 筑波山

日本ジオパークに認定されている筑波山(877m)は、多くの登山客や観光客で賑わいます。ロープウェイやケーブルカーを利用すれば気軽に山頂からの眺望を楽しめます。また、中腹には、縁結び・夫婦円満の神様を祀る「筑波山神社」、美肌効果のある「筑波山温泉郷」、森の地形や樹木を活かした「フォレストアドベンチャー」など大人から子どもまで楽しめます。



観て、遊んで、
学んで、体験して
四季折々おすすめ「筑波山」
を見つけよう!!

【筑波山の観光情報】

(一社) つくば観光コンベンション協会 <http://www.ttca.jp>

② つくばサイエンスツアー

科学の街・つくばでのサイエンスツアーを楽しめます。

- ・毎週土・日・祝日に、6つの研究施設を巡る一日乗り降り自由の「つくばサイエンスツアーバス」を運行しています。
- ・約50箇所の研究機関の中から、ご希望に応じて最適な見学・体験コースをご提案し、訪問施設の仮予約を無料で行います。

サイエンスツアーバス
循環施設

- 地図と測量の科学館(国土地理院)
- 筑波実験植物園(国立科学博物館)
- つくばエキスポセンター
- サイエンス・スクエアつくば(産業技術総合研究所)
- 地質標本館(産業技術総合研究所)
- 筑波宇宙センター(JAXA)

大人500円、子供(小学生)250円
幼児(保護者同伴)無料



【問い合わせ先】

つくばサイエンスツアーオフィス (一財)茨城県科学技術振興財団

茨城県つくば市竹園2-20-3(つくば国際会議場内)

☎029-863-6868(平日9:00~17:00)

<https://www.i-step.org/tour/>

つくばサイエンスツアー

検索

10 組織

(平成30年8月31日現在) 敬称略, 五十音順

(1) 第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会

会長	大井川 和彦	茨城県知事	高橋 靖	水戸市長
副会長	竹本 和彦	(公財) 国際湖沼環境委員会理事長	田中 聡志	環境省水・大気環境局長
副会長	宇野 善昌	茨城県副知事(県民生活環境部担当)	塚原 浩一	国土交通省水管理・国土保全局長
委員	五十嵐 立青	つくば市長	坪井 透	かすみがうら市長
	市村 和男	世界湖沼会議市民の会'18会長	中川 清	茨城県市長会長, 土浦市長, 霞ヶ浦問題協議会長
	薄井 征記	霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長	永田 恭介	筑波大学長
	海老澤 武美	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長	中原 常雄	日本放送協会水戸放送局長
	小田部 卓	(株)茨城新聞社代表取締役社長	中山 一生	茨城県河川協会会長
	小野寺 俊	茨城県副知事	西川 和廣	(国研) 土木研究所理事長
	金尾 健司	(独) 水資源機構理事長	幡谷 浩史	チャレンジいばらき県民運動理事長
	岸田 一夫	鉾田市長	服部 恵子	茨城県女性団体連盟会長
	北島 重司	(株)茨城放送代表取締役社長	別所 智博	農林水産省技術総括審議官 兼農林水産技術会議事務局長
	久間 和生	(国研) 農研機構理事長	松井 三郎	世界湖沼会議企画推進委員会委員長
	小林 宣夫	茨城町長, ラムサール条約登録湿地ひめまの会長	三村 信男	茨城大学長
	櫻井 よう子	茨城県地域女性団体連絡会長	山岡 恒夫	茨城県議会議長
	佐野 治	茨城県農業協同組合中央会長, (公社)茨城県畜産協会会長	渡邊 武	茨城産業会議議長
	染谷 森雄	茨城県町村会長	渡辺 知保	(国研) 国立環境研究所理事長
	高杉 則行	茨城県内水面漁業協同組合連合会 代表理事会長	今関 裕夫	茨城県市長会・町村会常務理事兼事務局長
			角田 英樹	茨城県会計管理者

(2) 企画推進委員会

委員長	松井 三郎	(公財) 国際湖沼環境委員会評議員	齋藤 章	茨城県県民生活環境部長
副委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	佐藤 寿延	国土交通省関東地方整備局河川部長
副委員長	中村 正久	(公財) 国際湖沼環境委員会副理事長	塩屋 俊一	農林水産省関東農政局農村振興部長
委員	阿部 薫	(国研) 農研機構農業環境変動研究 センター物質循環研究領域長	田尻 充	水戸市副市長
	飯野 哲雄	つくば市副市長	寺門 利幸	鉾田市副市長
	市木 繁和	(公財) 国際湖沼環境委員会事務局長	中川 一郎	農林水産省大臣官房政策課環境政策室 環境政策室長
	市村 和男	世界湖沼会議市民の会'18会長	中村 玲子	ラムサールセンター事務局長
	今井 章雄	(国研) 国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長	日野 浩二	(独) 水資源機構ダム事業本部 ダム事業部長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	光成 政和	国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課長
	小野 芳朗	(公社) 日本水環境学会会長, 京都工芸繊維大学教授・副学長	山野 博哉	(国研) 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	香川 眞	流通経済大学名誉教授	横瀬 典生	かすみがうら市副市長
	萱場 祐一	(国研) 土木研究所水環境研究グループ長		
	熊谷 和哉	環境省水・大気環境局水環境課長		
	黒田 久雄	茨城大学農学部地域総合農学科教授		
	小林 弘文	茨城町副町長		
	小林 由士郎	チャレンジいばらき県民運動専務理事		
	五頭 英明	土浦市副市長		

(3) 分科会運営委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科附属流域圏 総合環境質研究センター教授
委員	天野 邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部長	中村 正久	(公財) 国際湖沼環境委員会副理事長
	今井 章雄	(国研) 国立環境研究所フェロー, 琵琶湖分室長	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科附属 水環境制御研究センター教授
	小川 かほる	小川かほる環境教育事務所代表	山野 博哉	(国研) 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	香川 眞	流通経済大学名誉教授		
	黒田 久雄	茨城大学農学部地域総合農学科教授		



(4) 分科会検討部会

第1分科会

部会長	山野 博哉	(国研) 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	傳田 正利	(国研) 土木研究所水環境研究グループ 河川生態チーム主任研究員
	西廣 淳	東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授
	馬淵 浩司	(国研) 国立環境研究所琵琶湖分室 主任研究員
	吉田 丈人	東京大学総合文化研究科准教授

第2分科会

部会長	天野 邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部長
	梅田 信	東北大学大学院工学研究科准教授
	小栗 幸雄	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦 河川事務所副所長
	片岡 稔温	(独) 水資源機構利根川下流 総合管理所環境課長
	矢島 啓	島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー 研究センター教授、副センター長

第3分科会

部会長	今井 章雄	(国研) 国立環境研究所フェロー、 琵琶湖分室長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授
	苅部 甚一	近畿大学工学部化学生命工学科講師
	高津 文人	(国研) 国立環境研究所地域 環境研究センター湖沼・河川研究室長
	早川 和秀	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門副部門長

第4分科会

部会長	香川 眞	流通経済大学名誉教授
	田籾 健太郎	流通経済大学大学院スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学研究科教授
	永井 博	茨城県立歴史館史科学芸部長
	永野 聡	立命館大学産業社会学部准教授
	沼澤 篤	(一社) 霞ヶ浦市民協会研究顧問
	楊 平	滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員
	若月 博延	金城大学短期大学部ビジネス実務学科 准教授

第5分科会

部会長	黒田 久雄	茨城大学農学部地域総合農学教授
	江口 定夫	(国研) 農研機構農業環境変動 研究センター物質循環研究領域 水質影響評価ユニット長
	久保田 富次郎	(国研) 農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 水文水資源ユニット長
	仁科 一哉	(国研) 国立環境研究所地域環境研究 センター土壌環境研究室主任研究員
	山岡 賢	(国研) 農研機構農村工学研究部門 水利工学研究領域水域環境ユニット長

第6分科会

部会長	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科附属流域圏 総合環境質研究センター教授
	圓佛 伊智朗	(株) 日立製作所研究開発グループ 日立研究所制御イノベーションセンタ 主管研究員
	田尾 博明	(国研) 産業技術総合研究所 四国センター所長
	中野 伸一	京大大学生態学研究センター教授
	中村 圭吾	(国研) 土木研究所水環境研究グループ 上席研究員、自然共生研究センター長
	松下 文経	筑波大学生命環境系准教授

第7分科会

部会長	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科附属 水環境制御研究センター教授
	春日 郁朗	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 都市環境工学講座水環境制御研究室准教授
	小松 一弘	(国研) 国立環境研究所地域環境研究 センター湖沼・河川環境研究室主任研究員
	田中 仁志	埼玉県環境科学国際センター水環境担当 担当部長
	藤田 昌史	茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学領域准教授

第8分科会

部会長	小川 かほる	小川かほる環境教育事務所代表
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科教授
	及川 ひろみ	認定 NPO 法人人塚の自然と歴史の会 理事長
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授
	原田 泰	NPO 法人霞ヶ浦アカデミー理事

第9分科会

部会長	中村 正久	(公財) 国際湖沼環境委員会副理事長
	遠藤 功	(公財) 地球環境戦略研究機関フェロー
	平山 奈央子	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科助教
	和田 桂子	(公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 琵琶湖・淀川水質浄化研究所副所長
	Victor Shiholo Muhandiki	名古屋大学リーディング大学院推進機構 本部共通業務実施部門特任教授

(5) 霞ヶ浦セッション委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	滝下 利男	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (霞セッション)
委員	薄井 征記	霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長	辰野 剛志	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	廣原 正則	かすみがうら市市民部生活環境課長
	海老澤 武美	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長	深谷 伊知郎	茨城県農業協同組合中央会専務理事
	熊谷 和哉	環境省水・大気環境局水環境課長	松崎 慎一郎	(国研) 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター主任研究員
	小林 富夫	農林水産省関東農政局生産部 生産技術環境課長	水田 和広	土浦市市民生活部環境保全課長
	佐野 元彦	(公社) 茨城県畜産協会専務理事	吉川 宏治	国土交通省関東地方整備局河川部 河川環境長
	菅谷 吉弘	銚田市市民部生活環境課課長		
	鈴木 幸雄	茨城産業会議 (かすみがうら市商工会 副会長)		

(6) 湖沼セッション委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	高津 文人	(国研) 国立環境研究所地域環境 研究センター湖沼・河川環境研究室長
委員	阿部 薫	(国研) 農研機構農業環境変動研究センター 物質循環研究領域長	小松 直樹	滋賀県理事
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科教授	徐 開欽	(国研) 国立環境研究所資源循環・ 廃棄物研究センター主席研究員
	今井 章雄	(国研) 国立環境研究所琵琶湖分室フェロー、 分室長	中村 玲子	ラムサールセンター事務局長
	大谷 美恵子	チャレンジいばらき県民運動事務局長	林 栄一	水戸市生活環境部環境課長
	萱場 祐一	(国研) 土木研究所水環境研究グループ長	舟橋 弥生	国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課河川環境保全調整官
	熊谷 和哉	環境省水・大気環境局 水環境課長	山口 浩	千葉県国土整備部河川環境課長
	黒田 貢	茨城町生活経済部 みどり環境課長	吉川 宏治	国土交通省関東地方整備局河川部 河川環境課長

(7) サテライト会場連絡調整委員会

委員長	栗田 茂樹	茨城県生活環境部環境対策課長	高橋 正道	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (水戸市環境保全会議、水戸市担当)
委員	阿部 彰	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (一社) 霞ヶ浦市民協会、土浦市担当	廣原 正則	かすみがうら市市民部生活環境課長
	飯塚 敏夫	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (かすみがうら市家庭排水浄化推進協議会、 かすみがうら市担当)	菅谷 吉弘	銚田市市民部生活環境課長
	大曾根 政幸	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (世界湖沼会議北浦北部地域推進会議、 銚田市担当)	林 栄一	水戸市生活環境部環境課長
	黒田 貢	茨城町生活経済部みどり環境課長	水田 和広	土浦市市民生活部環境保全課長
	小栗 幸雄	国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所副所長	八木 昭稔	国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所副所長
	小池 聖彦	国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦導水工事事務所副所長	谷萩 八重子	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長 (クリーンアップひぬまネットワーク、 茨城町担当)

(8) 学生会議委員会

委員長	桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長	陶 慶一	茨城県学校長会 (水戸市立飯富小学校校長)
委員	阿部 治	立教大学社会学部・同大学院教授	田代 淳一	茨城県私学協会 (茗溪学園中学校高等学校校長)
	市木 繁和	(公財) 国際湖沼環境委員会事務局長	西川 朗	滋賀県教育委員会高校教育課長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	沼田 安広	(株) 茨城新聞社常務取締役
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授	原口 弥生	茨城大学人文社会科学部教授
	川松 秀夫	茨城県高等学校長協会 (茨城県立下館第一高等学校校長)		



(9) 学生会議審査部会

委員長	桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長	原口 弥生	茨城大学人文社会科学部教授
委員	赤羽 岳彦	茨城県教育研究会理科教育研究部 (つくば市立谷田部中学校教諭)	久松 正樹	環境省環境カウンセラー (取手市立山王小学校校長、 前茨城県自然博物館資料課長)
	阿部 治	立教大学社会学部・同大学院教授	細田 直人	茨城県霞ヶ浦環境科学センター係長
	潮田 好弘	茨城県教育研究会理科教育研究部 (古河市立総和北中学校教諭)	松田 征也	滋賀県琵琶湖博物館環境学習センター 所長
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授	三輪 俊一	茨城県霞ヶ浦環境科学センター主査
	仲間 伸彦	滋賀県教育委員会事務局高校教育課主査	山口 博之	環境省環境カウンセラー (NPO 法人エコレン理事長)
	名和 俊之	茨城県高等学校文化連盟自然科学部 (茨城県立荃崎高等学校教諭)		
	八田 佳奈	(公財) 国際湖沼環境委員会主事		
	濱田 元	茨城県高等学校文化連盟自然科学部 (茨城県立水海道第一高等学校教諭)		

(10) いばらき霞ヶ浦宣言起草委員会

委員長	松井 三郎	(公財) 国際湖沼環境委員会評議員	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
委員	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	松本 周一	茨城県県民生活環境部霞ヶ浦浄化対策監
	中村 正久	(公財) 国際湖沼環境委員会副理事長		

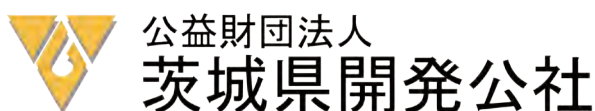
11 協賛企業・団体のご紹介

(平成30年8月31日現在)

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）は、以下の企業、団体のご支援をいただいております。

HITACHI

Inspire the Next



鹿島臨海工業地帯
西部地区企業連絡会



一般社団法人
茨城県産業資源循環協会

中川ヒューム管工業
株式会社

前澤工業株式会社

株式会社
藤代範雄デザイン事務所

いであ株式会社

サントリー酒類株式会社関東支店



- | | | |
|--------------------------|----------------|--------------------------|
| 鹿島都市開発株式会社 | 鹿島埠頭株式会社 | 鹿島臨海鉄道株式会社 |
| 日立セメント株式会社 | 株式会社あおぞら | 株式会社潮来工機 |
| 株式会社エコイノベーション | 株式会社カツタ | 神栖商事有限会社 |
| 関東鉄道株式会社 | 黒沢産業株式会社 | JX 金属株式会社日立事業所 |
| JFE 条鋼株式会社
東日本工場鹿島製造所 | 株式会社昭栄 | 新和企業有限会社 |
| 水 ing 株式会社 | 有限会社大進エンジニアリング | 高野工業株式会社 |
| 高橋商事株式会社 | 株式会社日昇つくば | 有限会社沼田クリーンサービス |
| 百里開発株式会社 | 有限会社プライムクリエイト | 株式会社フルヤ建商 |
| 八幡碎石工業株式会社 | 株式会社やまたけ | 吉江総業有限会社 |
| 株式会社リサイクルパーク | いばらきコープ生活協同組合 | NC 東日本
コンクリート工業株式会社 |
| 国際ロジテック株式会社 | 中山商事株式会社 | 三菱電機プラント
エンジニアリング株式会社 |

助成団体のご紹介

(平成30年度)

第 17 回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦 2018）は以下の団体から助成を受けています。



河川 基金

公益財団法人
本田記念財団

一般社団法人
関東地域づくり協会



Memo



会場までのアクセス



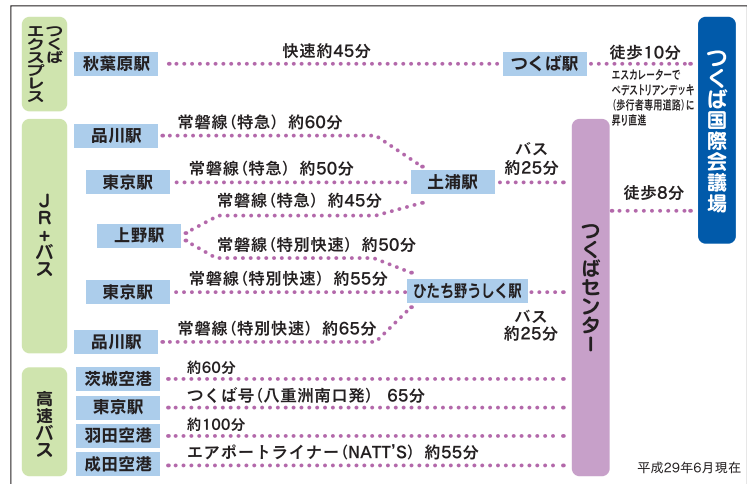
会場 つくば国際会議場

〒305-0032

茨城県つくば市竹園2丁目20番3号

つくば国際会議場は、筑波研究学園都市における研究交流機能の強化、コンベンションの開催に伴う地域経済の活性化を目的として建設され、2016年には、G7 茨城・つくば科学技術大臣会合の会場となりました。

また、2019年には、G20 貿易・デジタル経済大臣会合の会場となる予定です。



問い合わせ先

第17回世界湖沼会議 (いばらき霞ヶ浦2018) 実行委員会事務局

〒310-8555
茨城県水戸市笠原町 978 番 6
茨城県県民生活環境部環境対策課内
TEL : 029-301-2995
FAX : 029-301-2969
Email : wlc17@pref.ibaraki.lg.jp

第17回世界湖沼会議 (いばらき霞ヶ浦2018) 運営事務局

〒102-0075
東京都千代田区三番町 2
株式会社コンベンションリンクージ内
TEL : 03-3263-8695
FAX : 03-3263-8693
Email : cl-wlc17@c-linkage.co.jp



河川基金

この会議は(公財)河川財団による河川基金の助成を受けています。また、(公財)本田記念財団、(一社)関東地域づくり協会、(公財)つくば科学万博記念財団による助成を受けています。

茨城県 世界湖沼会議

<http://www.wlc17ibaraki.jp/>



内容につきましては、変更になる場合がありますので予めご了承ください。

写真提供：国土交通省、土浦市、つくば市、かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市、(一社)茨城県観光物産協会、(一社)霞ヶ浦市民協会、いこいの村沼沼、つくば国際会議場

2018年9月発行